

平成25年度版
京都市の学校評価システム

平成24年度実施状況

——「自らを振り返り」「互いに高め合う」——

平成25年9月

京都市教育委員会

目 次

I 京都市の学校評価システム

1 京都市における学校評価の考え方	2
2 重点項目	5
3 実施状況	5
4 学校評価関係年表	15

II 学校での取組事例

1 京都市立山階南小学校	19
～学校の教育力・教師の指導力・保護者や地域の教育力を相互に高め合う学校評価～	
2 京都市立小栗栖中学校	29
～教職員一人ひとりが学校教育目標に向けた進捗状況と課題を明確に認識する学校評価～	
3 京都市立東総合支援学校	36
～学校・家庭・学校関係者が、自らの行動を振り返るための学校評価～	

I 京都市の学校評価システム

1 京都市における学校評価の考え方

本市では、学校評価を導入するにあたり、平成13年度に校長会との共同プロジェクトを立ち上げ、学校評価の試行実施を開始した。その後、2年間の議論と実践をもとにプロジェクトのまとめ「今、学校にもとめられているもの」を発行すると同時に学校評価ガイドラインを策定し、学校と家庭・地域が、お互いが足りないところを補い合い、互いに高め合う双方向の信頼関係を築くことを目指す学校評価を平成15年度から全校で実施した。

○その後の経過

H16年	全校での評価結果の公表
H18年12月	学校運営協議会に関する専門委員会 学校評価部会の設置
H19年4月	「京都市学校評価システムガイドライン（平成15年度版）」の改訂
H19年6月	「京都市行政活動及び外郭団体の経営の評価に関する条例」の施行
H19年7月	「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」を設置 (学校運営協議会に関する専門委員会 学校評価部会を組織改正)

この間、学校評価活動を深化させながら、PDCAサイクルによる「学校評価システム」の着実な浸透を図ってきた。また、国においても、学校評価をめぐる法令の改正が行われ、学校自己評価の実施とその公表、教育委員会への報告が義務化されるとともに、自己評価結果に対して保護者、地域の方々など学校関係者による評価を得ることも努力義務化された。

こうした状況を踏まえ、平成21年6月には、次の4点を柱とした「京都市学校評価ガイドライン(第3版)」を策定し、学校評価の充実に努めている。

(1) 学校評価をみんなのものにする

各学校では、校内評価委員会を中心に全教職員が評価項目・指標、学校教育目標の具現化に向けた実践や評価結果を共有し、「自己評価」を今後の教育活動の改善に結び付けるとともに、保護者・地域の方々による「学校関係者評価」やそれらの評価結果の公表を行っている。こうした取組を通して、学校評価は、教職員はもとより、保護者・地域の方々も含めた「みんなのもの」となり、学校・家庭・地域が一体となって子どもたちの学校生活を「よりよいもの」とする上で、重要な役割を担っている。

(2) 当事者意識を持って評価する

単なる評価者として学校を見るのではなく、よりよい学校づくりを一緒になって進める当事者としての意識を持って評価する。特に、本市では、学校運営協議会の大きな機能の一つとなっている学校関係者評価の中で、学校の自己評価結果に対する評価とともに、学校改善に向けた支援策を明記することとしている。

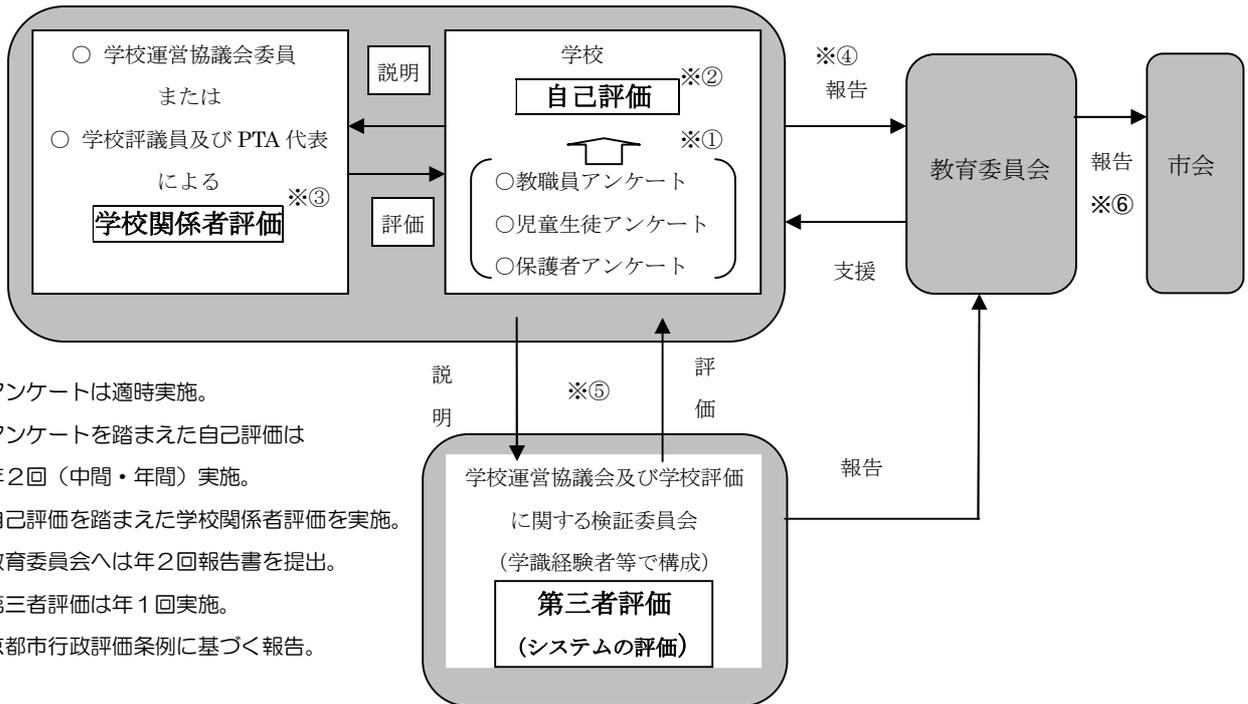
(3) 自らを振り返り、互いに高め合う

本市では、学校評価システムの導入当初から、保護者・地域等が学校を一方向的に評価するのではなく、それぞれがそれぞれの立場で自らを振り返ることを重視してきた。「教職員は自らの教育活動や指導を振り返る」「保護者は自らの子育てを振り返る」「地域は子どもへの関わりを振り返る」そして、「子どもたちは、自らの学習に向かう学びの姿勢を振り返る」など、「それぞれが自らを振り返る」という視点を持つことにより、お互いが足りないところを補い合い、互いに高め合う双方向の信頼関係の構築を目指し、取り組んできた。

(4) 学校の魅力を発見し、発信する

学校評価を実施することで学校の課題を把握し、その克服・改善に向けた取組に結びつけるためには、学校の魅力が見える評価手法を用いることが重要である。本市では、平成20年度から22年度まで慶應義塾大学と学校評価支援システムの構築に向けた共同研究に取り組み、この研究では、調査設計や集計が簡単・迅速で、かつ分析結果から自校の課題や魅力が一目で分かる課題発見・魅力発見型の新しいアンケート手法を導入した。

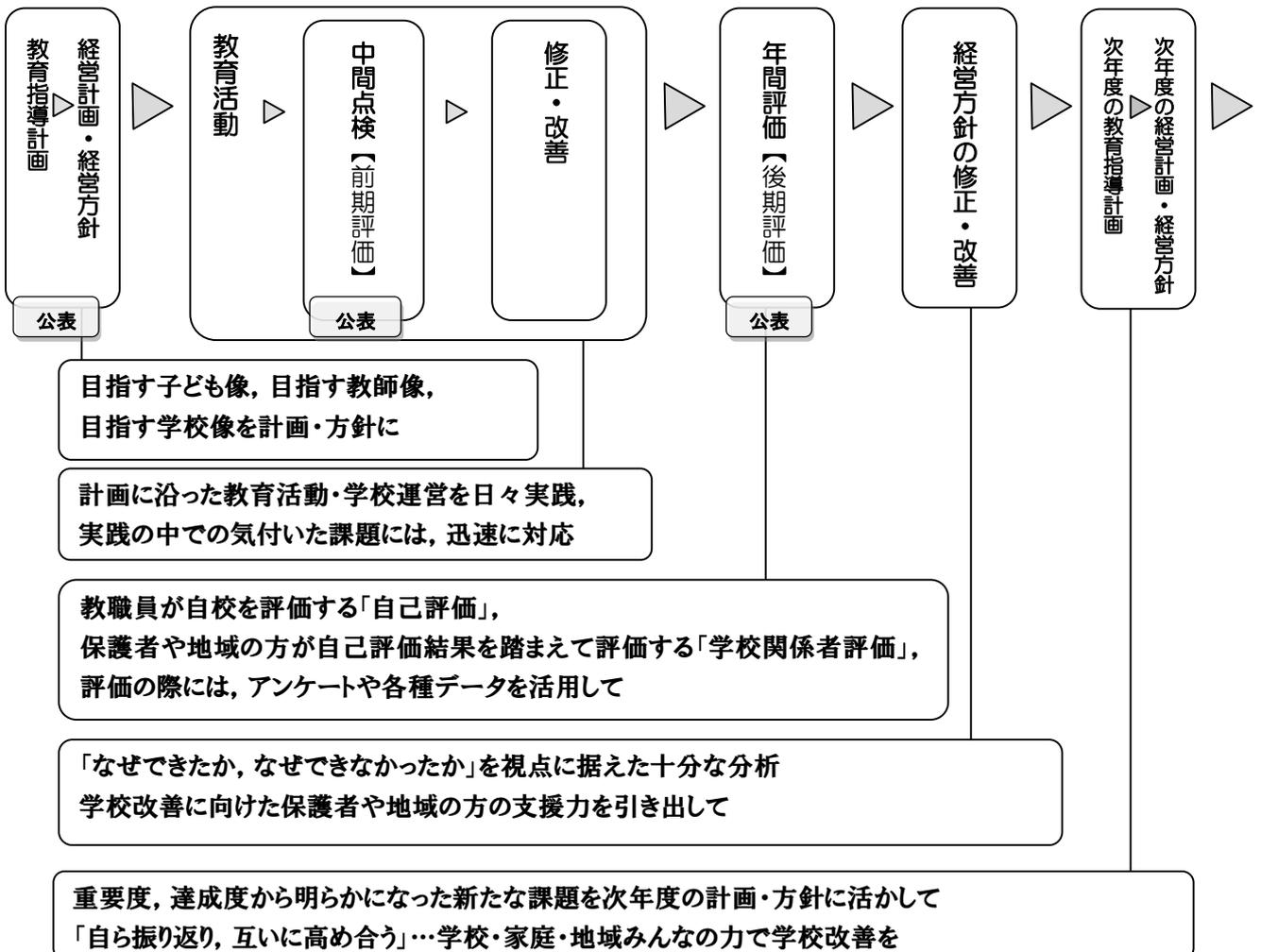
《自己評価と学校関係者評価、第三者評価のイメージ図》



- ※①アンケートは適時実施。
- ※②アンケートを踏まえた自己評価は年2回（中間・年間）実施。
- ※③自己評価を踏まえた学校関係者評価を実施。
- ※④教育委員会へは年2回報告書を提出。
- ※⑤第三者評価は年1回実施。
- ※⑥京都市行政評価条例に基づく報告。

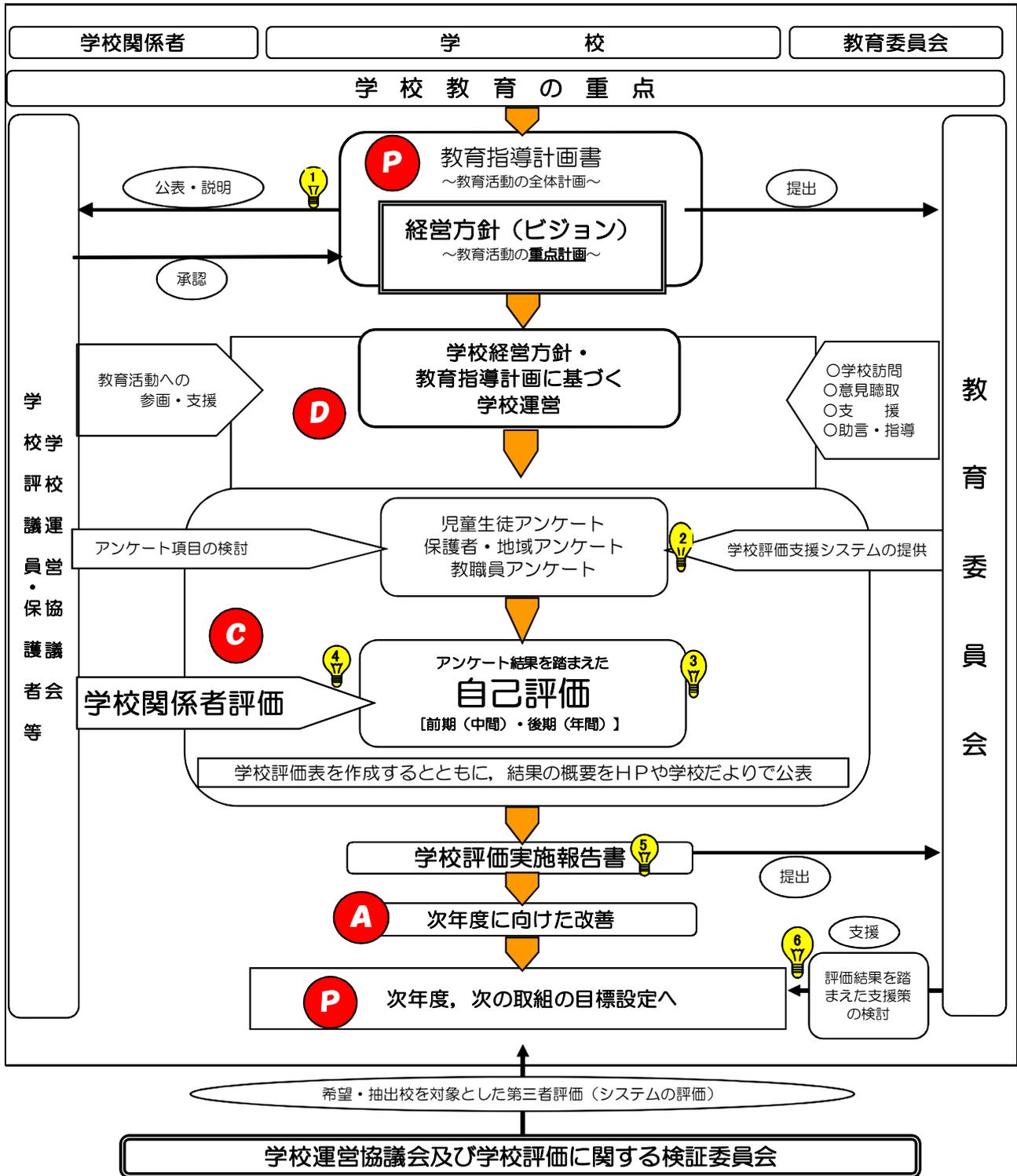
《PDCAサイクルに基づく学校評価の流れ》

願いをこめて 力を合わせて 振り返り 高め合い 次のステップへ



学校評価の推進と学校運営の改善

学校は、自己評価を基本とし、学校関係者評価を活用して、組織的・継続的に学校改善を図っていきます。



ポイント

- 1 学校経営方針，学校評価年間計画，評価項目の策定，公表
- 2 学校の魅力・課題の発見につながるアンケート手法の活用（推奨）
- 3 学校組織としての自己評価を充実させ，評価結果及び改善策を提示
- 4 自己評価結果に対する学校関係者評価の実施と，課題解決に向けた改善策や支援策の協議
- 5 評価結果の教育委員会への報告
- 6 教育委員会は学校に対する様々な支援の情報として評価結果を活用

2 重点項目

平成24年度においては、これまでの取組の上に立って、学校評価の一層の充実を目指し、以下の3点を重点課題とした。

- 1 学校評価の年間計画に合わせるため、全ての小中学校で中間点検・年間評価を実施する際に学校評価実施報告書を作成。
- 2 「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」による、学校訪問（第三者評価）を実施。
- 3 学校評価を通じて、学校運営の組織的・継続的な改善や地域と一体となった学校づくりを推進していくため、学校評価をテーマに管理職を対象にした学校経営力向上講座を実施。

3 実施状況

(1) 「自己評価」の実施状況

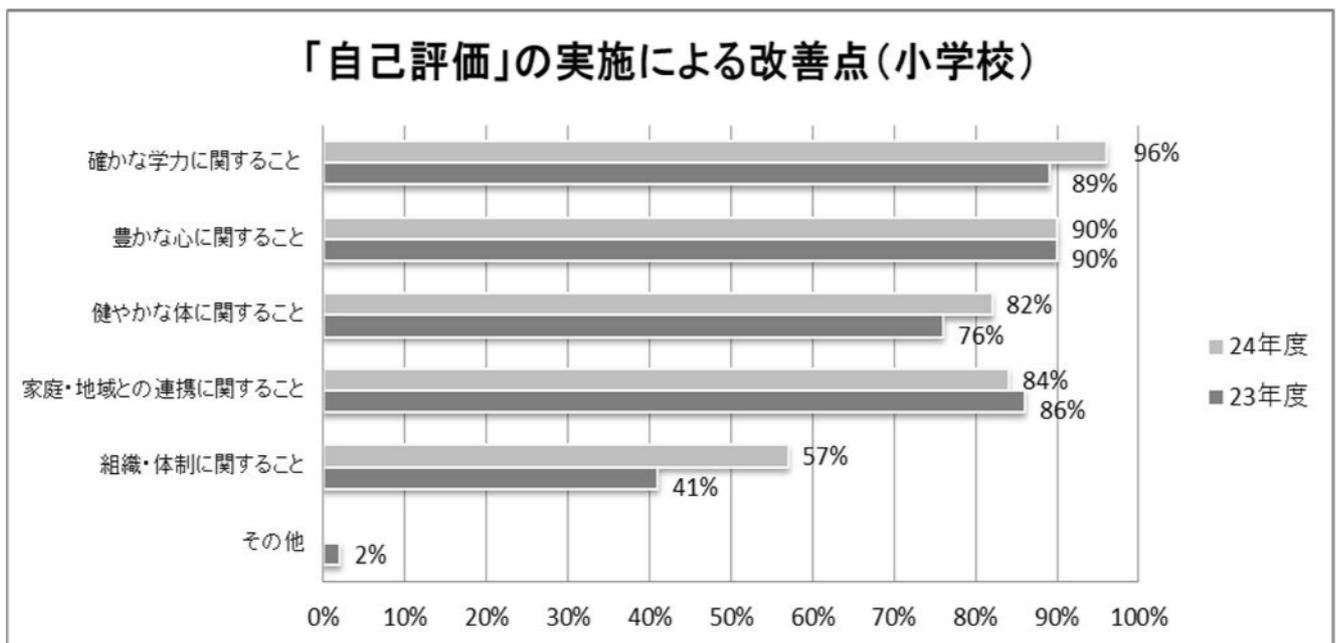
ア 実施状況

全ての小中学校で、保護者、児童・生徒によるアンケートを実施するとともに、それらをもとにした「自己評価（学校教育法施行規則第66条で平成19年から義務化）」を行った。それらの結果については、各学校において、学校評価を特集した「学校だより」やホームページ等で公表した。

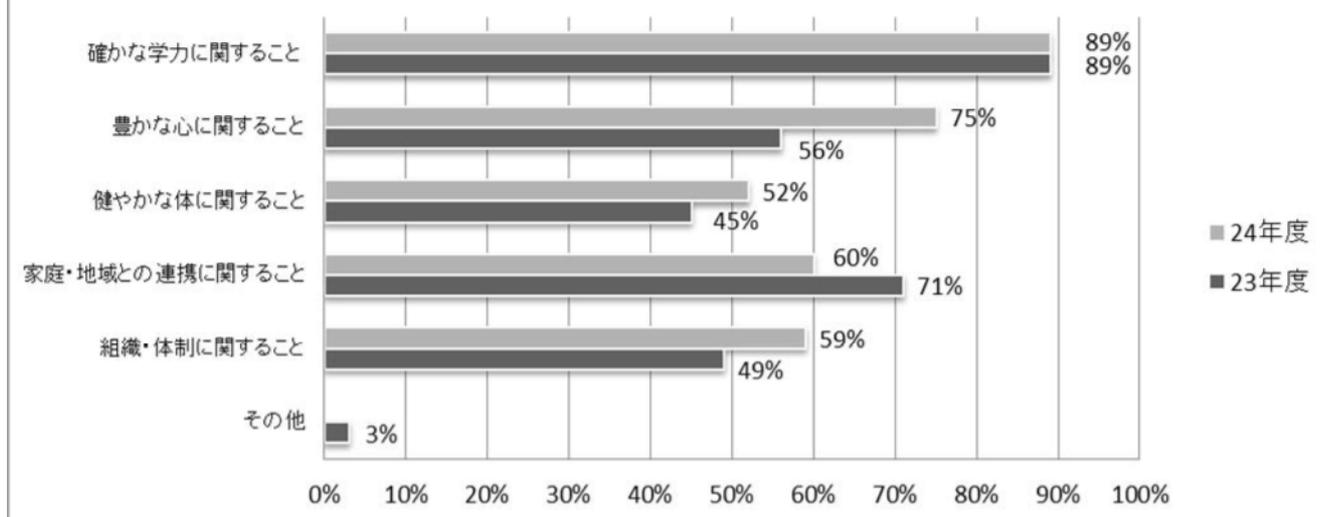
イ 「自己評価」の実施による改善点

小中学校に、「昨年度（平成24年度）実施した自己評価を、どのような点で活かそうとしましたか。」と調査したところ、以下のとおりの回答を得た（複数回答可）。

「確かな学力に関すること」が小学校は96%と高い割合となっており、平成23年度と比較して7ポイント上昇している。これは、近年の学力に対する関心の高まりの中で、各校が確かな学力の定着のため、自己評価をもとに、改善に向けた取組の充実を図ろうとする意欲の表れと推測される。また、「豊かな心に関すること」が中学校では75%と平成23年度と比較して19ポイント上昇しており、基本的な生活習慣の確立、規範意識の醸成に取り組んでいることが伺われる。



「自己評価」の実施による改善点(中学校)



(2) 「学校関係者評価」の実施状況

「学校関係者評価（学校教育法施行規則第67条で平成19年から努力義務化）」については、全ての小中学校で、「学校運営協議会」又は「学校評議員が一堂に会する場」で保護者による評価や児童生徒による評価も含めた自己評価の結果と改善策を説明し、意見をいただく形態で実施している。学校運営協議会委員や学校評議員の意見が、学校自己評価結果と照らし合わされることによって、具体的な改善策に結びついている。

また、学校運営協議会設置校では、協議会に「評価部会」を設けること等により、評価項目の検討から分析まで学校運営協議会が主体的に参画している事例もある。学校評価の一連の流れに参画することにより、学校運営の当事者としての意識が高まり、学校運営協議会の活動のさらなる活性化につながっている。

[参考] 学校運営協議会の設置数（平成25年3月末現在）

小学校：144校（設置率84.7%） 中学校：33校（設置率45.2%）

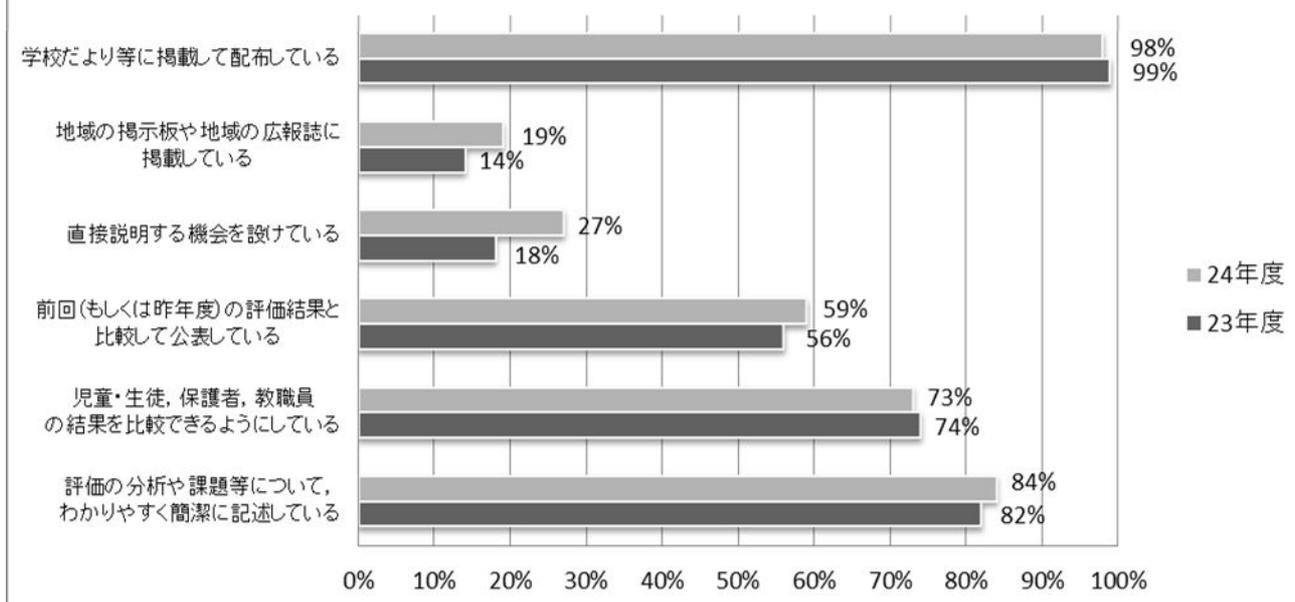
評価部会設置数

小学校：37校（設置率25.7%） 中学校：9校（設置率27.3%）

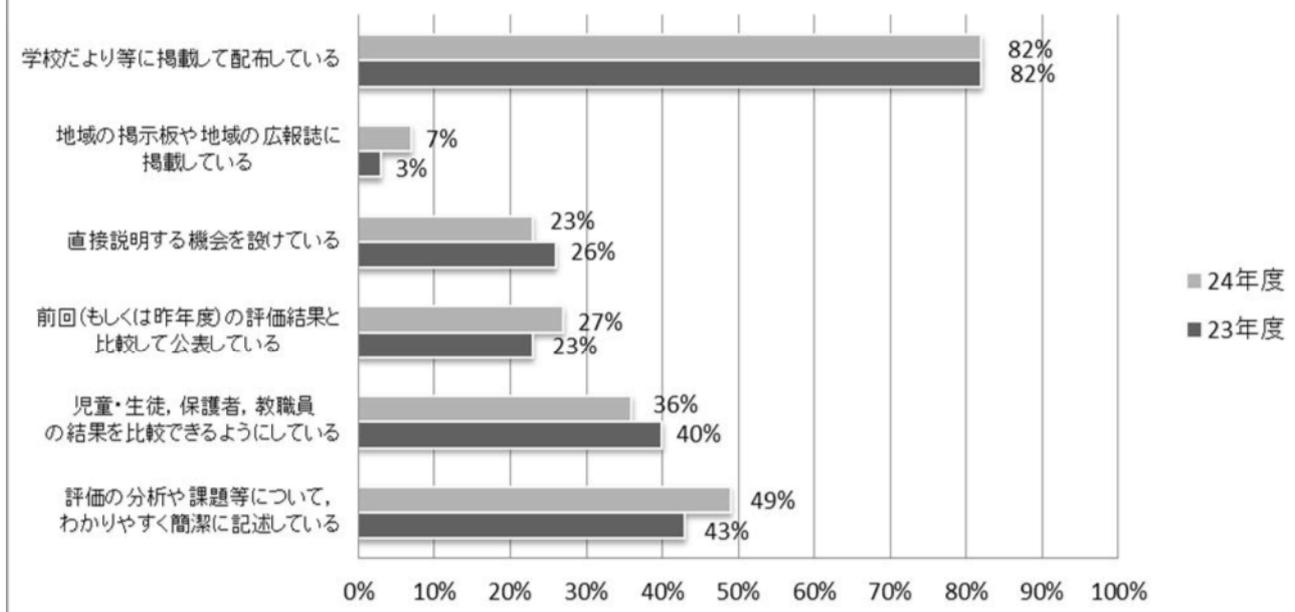
(3) 「学校評価の公表方法や公表内容」で工夫していること

小中学校に対し、「昨年度（平成24年度）の学校評価結果の公表方法や公表内容で工夫していることについて」調査したところ、以下のとおりの回答を得た（複数回答可）。小学校の98%、中学校は82%以上の学校が学校便り等に「自己評価・学校関係者評価」の結果を掲載している。学校便り等に掲載していない学校については、直接説明する機会を設けている。特に小学校では、「直接説明する機会を設けている」が平成23年度と比較して9ポイント上昇しており、積極的な公表をする学校が増えてきている。

学校評価の公表方法や公表内容で工夫していること(小学校)



学校評価の公表方法や公表内容で工夫していること(中学校)



(4) 「第三者評価」等の実施状況

ア 「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」について

本市の学校評価システムは、「自らを振り返り、互いに高め合う」ことを理念としており、学校・家庭・地域が「子どもを育む当事者」として関わることを重視している。

そのため、評価項目等も各校の課題に応じて重点化して設定している。一方、学校評価の実施状況や本市が進める学校評価システムの客観性・信頼性を検証するとともに、第三者的な視点で学校の教育の質の向上につなげるため、学識経験者等による「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」（以下「検証委員会」という）を設置している。

なお、検証委員会は、「京都市行政活動及び外郭団体の経営の評価に関する条例」第11条第2項に規定される「・・・評価について調査し、審議するため」の委員会としての機能も果たしている。

【検証委員会委員（24年度）敬称略・肩書は当時】

天笠 茂	千葉大学教授	
大岩 英雄	公募委員（下京中学校学校運営協議会委員）	
加藤 明	兵庫教育大学教授	
○小松 郁夫	玉川大学教職大学院教授	
塩尻 マユミ	元向島南小学校長・元地域教育専門主事室副室長	
西村 真理子	P T A代表（京都市小学校P T A連絡協議会庶務）	
◎堀内 孜	京都教育大学教授	
前平 泰志	京都大学教授	
永本 多紀子	京都市立中京もえぎ幼稚園長	
大畑 眞知子	京都市立藤城小学校長	
畑中 一良	京都市立下鴨中学校長	
竹内 香	京都市立東総合支援学校長	
河村 広子	京都市教育委員会学校指導課長	※ ◎は委員長，○は副委員長

イ 検証委員会による学校訪問

本市の学校評価システムが、学校現場において、学校改善に向けたシステムとしての的確に機能しているかどうかを検証するため、学校訪問を実施した。

その結果、「学校によっては学校評価に関するアンケートの回収率が徐々に高くなりつつあり、そうしたものを学校改善に活かそうとしていた。」「管理職、学年主任レベルだけではなく、教職員全員が学校評価に対する認識が深まってきている。」と評価を得ている。

なお、今後に向けた課題としては、各学校ごとに「地域性や家庭の経済状況など様々な異なる背景がある中で、それに伴って学校評価の在り方も変えていかなければいけない」などの意見をいただいた。

【第三者評価の実施校】

以下の学校において、校長・担当教員ヒアリング、授業観察等を実施。

①京都市立小栗栖中学校

- ・日 時 平成24年12月5日（水）午前9時～
- ・委 員 小松副委員長（リーダー）、大岩委員、塩尻委員、畑中委員

②京都市立小栗栖小学校

- ・日 時 平成24年12月5日（水）正午～
- ・委 員 小松副委員長（リーダー）、天笠委員、大岩委員、塩尻委員、畑中委員

③京都市立山階南小学校

- ・日 時 平成24年12月11日（火）午前9時～
- ・委 員 堀内委員長（リーダー）、竹内委員、西村委員

④京都市立百々小学校

- ・日 時 平成24年12月11日（火）正午～

- ・委員 堀内委員長（リーダー）、大畑委員、西村委員

⑤京都市立石田小学校

- ・日時 平成25年1月15日（火）午前9時～
- ・委員 小松副委員長（リーダー）、天笠委員、塩尻委員

⑥京都市立小栗栖宮山小学校

- ・日時 平成25年1月15日（火）正午～
- ・委員 小松副委員長（リーダー）、天笠委員、塩尻委員

⑦京都市立東総合支援学校

- ・日時 平成25年1月22日（火）午前9時～
- ・委員 堀内委員長（リーダー）、加藤委員、西村委員、

ウ 平成24年度 検証委員会開催状況

①第1回会議

- ・日時 平成24年10月9日（火）14時～
- ・会場 京都市役所4階 教育委員室
- ・議題 検証委員会の学校訪問について
学校評価及び学校運営協議会について

・議事概要

（検証委員会の学校訪問について）

- 私たちがしっかり学校の声を聞いて取組を進めていくためにも、検証委員会による学校訪問の重点を決めてもよいのではないかと。例えば、小・中の同じ地域の学校を訪問して地域性を見るなどして、訪問の際のアドバイスや評価指標を出した後の教育委員会の動きが学校や保護者に届き、学校評価の取組が改善に繋がるようにしたい。
- 学校評価の本質が浸透しきれてないところもあるので、訪問の際には私たちが手間をかけて見ていくことが必要である。訪問については、同じ地域の小・中で組み合わせて訪問してみるのはいかがでしょうか。
- 学校運営協議会の委員をやっており、授業を見に行くことも多いが、子どもたちを見ていると熱心に授業に取り組んでいる。小・中の同じ地域を見るのは非常によいと思う。地域的に離れていなければ、地域としてどういう子どもを育てたいかという思いは同じであると思う。
- アンケート＝学校評価ととらえがちであるが、そうではないとわかってきつつも、まだまだ改善まではいけていない。同じ地域の小・中を見ることで気づくことはたくさんあると思う。
- 政令指定都市なので、多くの学校を抱えており、対応のきめ細かさが必要となってくる。また、教育委員会に学校評価実施報告書を提出してもらった後、データが学校で活かされてない現状もあると思う。学校評価を受けて、どういう取組をされたのか、どういう改善が可能なのかをヒアリングできる訪問にしたい。
- 例えば、23年度の学校評価実施報告書には改善策が書かれているが、これが24年度にはどうなっているか。学校評価の改善の結果がどうであったか、授業がどう工夫されたかを学校訪問では聞きたい。

（学校評価等について）

- 地域・保護者も学校の中で教育力を活かしていただくために学校評価や学校運営に関わっていただいている。京都市内全ての学校が基準を一定統一して行っていることは非常に意味の

あるよいものであると思う。様々な学校の地域性がある中で、この検証委員会が支援できるとよい。

- 教職員全員が学校評価の取組を共通理解していて、よくやっている学校を抽出し、見本となる学校がどのような段取りで一年間進めているのかを見るのも良いと思う。
- 学校評価の原点は子どもたちのためであると思う。それはPTAの活動も同じで、保護者も楽しく取り組むことができるようにしながらも、子どもたちのためであることを忘れないようにしている。子どものためでもあると思うし、学校評価もそれを忘れないようにしなければならないと思う。
- 学校評価の指標作りは大変な作業であるにもかかわらず、活動そのものの改善にうまく利用できていない側面がある。活かし方は地域性もあるので、支部の校長会・教頭会・教務主任会等で見直しが必要であると思う。

②第2回会議

- ・日 時 平成25年1月31日（木）15時～
- ・会 場 京都市役所4階 教育委員室
- ・議 題 行政評価条例に基づく「学校評価」に関する市民意見申出について
検証委員会の学校訪問について
次年度以降の検証委員会の方向性等について

・議事概要

(検証委員会の学校訪問について)

- 学校を4校訪問して感じたのが、共通して子どもの実態、地域の実態についての課題が明確化されていた。そういった意味では、何をしなくてはいけないかの経営目標がはっきりしているところであった。
- 訪問した学校では、学力向上に対してきめ細かく対策をしており、家庭学習の習慣をつけるために、宿題を出し、提出物のチェックもきちんとされていた。
- 学力向上について小学校、中学校が頻繁に話し合いを行っていると聞いている。図書館を見させてもらったが、図書支援員も熱心に活動されていて、生徒が利用しやすいように図書館の活性化もされている。
- 教育環境の課題は大きいですが、校長先生に関しては一生懸命考えて授業の改善に取り組んでおられる。家庭学習については課題があるようであるが、将来この学校を卒業してよかったということも思ってもらえるような学校づくりをしていた。
- 地域が一生懸命学校のために活動されているという状況をよりうまく機能させて、学校運営協議会を活性化させていきたいという思いも聞けた。学年を中心にした学校経営を心掛けており、学年主任を核として学力を向上させて欲しい。
- 総合支援学校では本当に一人ひとりのための教育が実践されていると感じた。障害を持っている子どもたちが通うところなので、体の不自由なところが違うのはもちろんであるが、子どもたちも自分でできる範囲のことを一生懸命やっている。一般校でも大切にしてもらっていると思うが、理想としては一人ひとりが見てもらえるような教育を一般校でもしてもらえればうれしい。
- 特別支援教育は領域も広いしなかなか大変。私は知っているつもりだったが、今回の訪問では特別支援教育について学ぶことのほうが多かった。総合支援学校の学校評価については、小中と同じ枠組みでないほうがよい。一人ひとり目標が違って学習をしているのだから小中学校と同じような学校評価ではなく、それに応じた学校評価を開発されたらどうかと思う。
- 京都市は小中も同じ設置者だから、総合支援学校と地域の小中学校とも大変よく連携が出来ている。こういった連携も学校評価の視点から見るのが大切で、教育委員会との連携や他

の機関との連携を見ていかななくてはいけない。障害のある児童生徒に対する理解や指導，医療的ケア等の専門性を高めるための取組状況についても学校評価実施報告書に書かれているようにして欲しい。

- 学校によっては学校評価に関するアンケートの回収率が徐々に高くなりつつあり，そうしたものを学校改善に活かそうとしていた。
- 全国的にはなかなか外部から人材を集められないので，学校運営協議会の委員や学校評議員に評価してもらうことが第三者の外部評価ということになっているが，京都市にはこの第三者評価委員会があるのが強み。京都市もここ1・2年で，管理職，学年主任レベルだけではなくて，ようやく教職員全員が学校評価を語れるようになってきたのかと思う。

(次年度以降の検証委員会の方向性等について)

- 来年度以降のことについて整理していきたい。今年度，学校訪問シートに学校運営協議会の欄を追加したが，従来は学校運営協議会の活動についてあまり聞けてなかった。今までは学校評価と学校運営協議会とはそれほど接点がなかったし，学校運営協議会が学校改善にどう役立って，関わっているかが見えてこなかった。どちらも学校経営を改善するツールであるし，今後はその視点で見えていってもいいのではないか。
- 学校評価の処理の仕方として，年2回アンケートを取って教頭ないし教務主任が結果をまとめ，校長が学校評価の結果を見るわけだが，それをどのように職員会議で出したのか，どこかの委員会で話をされているのか，学年まで話をしているのか。そして，学校運営協議会でどこまで話しているのか。そこまで我々が今回フォローしきれなかったのが課題。
- 政令市の教育行政というのは管理する学校の数が多いので，画一化ということを気にしてしまいがちであるが，地域性や家庭の経済状況など色々な問題を抱えているので，それに伴って学校評価の在り方も変えていかなければならないという宿題をもらったように思えた。
- 訪問した学校の中には人口がまだ増えている地域もあり，そうした学校は中規模校程度の児童数に現在はなっている。学校によって教育上の様々な問題も違ってくるのではないか。そういう学校の経営に学校評価をどう反映していくのか，学校評価と学校運営協議会の地域性をどう考えたらいいのかを来年度深く検証したい。
- 昨日参加した学校運営協議会では，我が学校のキャリア教育をどうしようかというところまで話し合っていたし，職場体験を受け入れてくれた方も参加していた。はじめは支援型で，第2段階としては連携型を目指し，地域と学校が一緒にやっていく。最後の発展型としては校長の人事権も含めて地域が学校のオーナーになる形の協働型もあるが，日本では協働型は馴染まないのだから，連携型の学校運営協議会を目指すべきなのだと思う。

(4) 京都市版学校評価支援システム

ア 概要

評価の集計，分析，公表の迅速化を図るため，平成19年度から，パソコン上でマークシート方式のアンケートを作成し，迅速な集計ができるソフトウェアを全市で活用することとした。こうした中，京都市教育委員会と慶應義塾大学との連携協力に関する協定（平成20年8月締結）に基づき，平成22年度までの3箇年をかけて，「京都市版学校評価支援システム」の共同開発を進めた。現在，多くの学校で「かんたん調査票作成ソフト」「かんたん調査票読み取りソフト」「かんたん課題分析データベース」からなる「学校評価支援システム（SESS）」が活用されている。

イ 活用状況

中学校ではアンケート、データベースともに増加しており、学校評価支援システムの活用が浸透してきている。小学校では、データベース分析利用の割合が減少しているが、「データベース分析を利用せず、アンケート結果と学校の取組状況から学校独自に分析している」と回答している学校が増えてきている。今後はシステムの刷新や研修会の実施、マニュアルの改良を図るなどして普及に努めていく。

アンケート活用状況	小学校		中学校		合計	
「重要度」と「実現度」を聞くニーズ調査型アンケート（※）の実施	75	44.6%	20	27.4%	95	39.4%
「実現度」のみを聞くアンケートの実施	48	28.6%	23	31.5%	71	29.5%
合計	123	73.2%	43	58.9%	166	68.9%

データベース分析活用状況	小学校		中学校		合計	
ニーズ調査型データベース分析の実施	38	22.6%	9	12.3%	47	19.5%
ニーズ調査型以外のデータベース分析の実施	21	12.5%	12	16.4%	33	13.7%
合計	59	35.1%	21	28.7%	80	33.2%

※「重要度」と「実現度」を聞く「ニーズ調査型」アンケートの例

ニーズ調査型アンケート

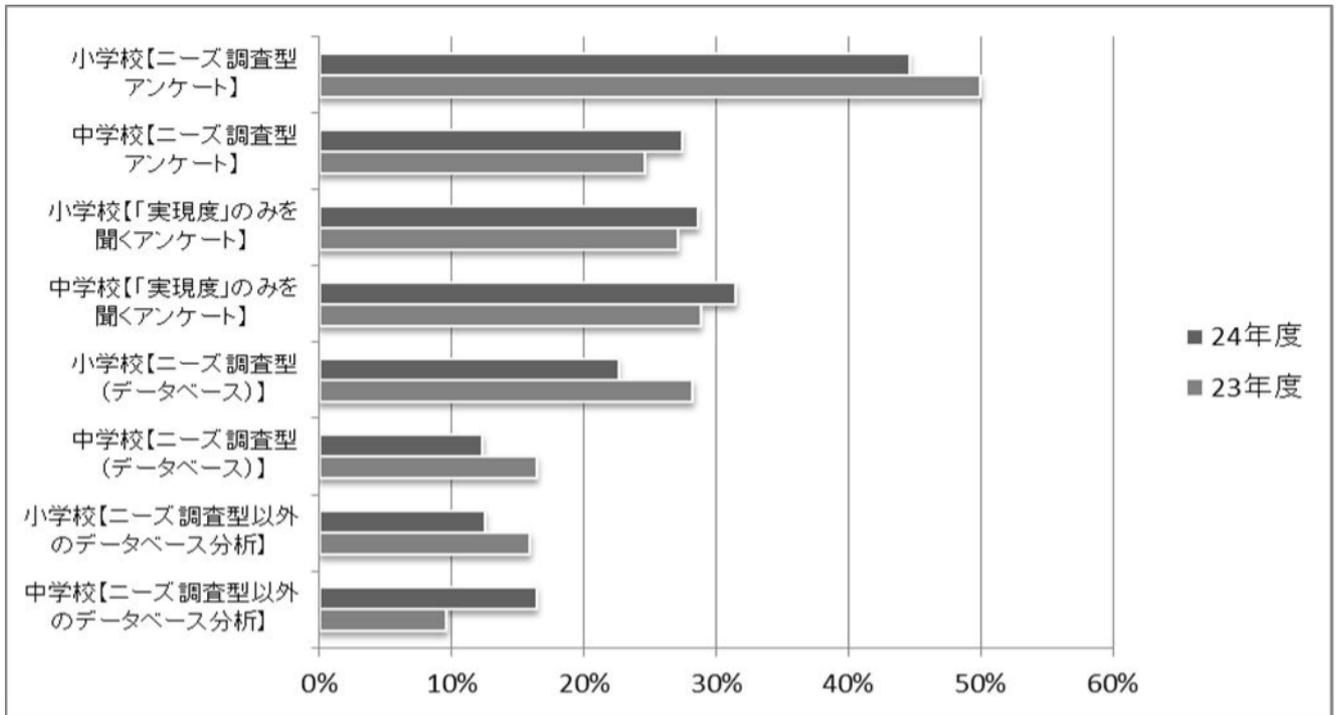
以下のそれぞれの質問で、あてはまるもの一つにマークをしてください。

(1) 学年: 1年 2年 3年 4年 5年 6年

(2) クラス: 1組(A組) 2組(B組) 3組(C組)

(3) 以下の各項目について、「(A)どのくらい重要だと思うか(重要度)」と「(B)実現できていると思うか(実現度)」をそれぞれお答えください。

		重要度				実現度				
		重要である	やや重要である	あまり重要ではない	重要ではない	よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来ていない	わからない
1	子どもが適切な言葉づかいをすること	<input type="radio"/>								
2	子どもが丈夫な体をつくろうとすること	<input type="radio"/>								
3	子どもが学校の決まりや約束を守って生活すること	<input type="radio"/>								



ウ 魅力・課題発見型（ニーズ調査型）アンケート手法の例

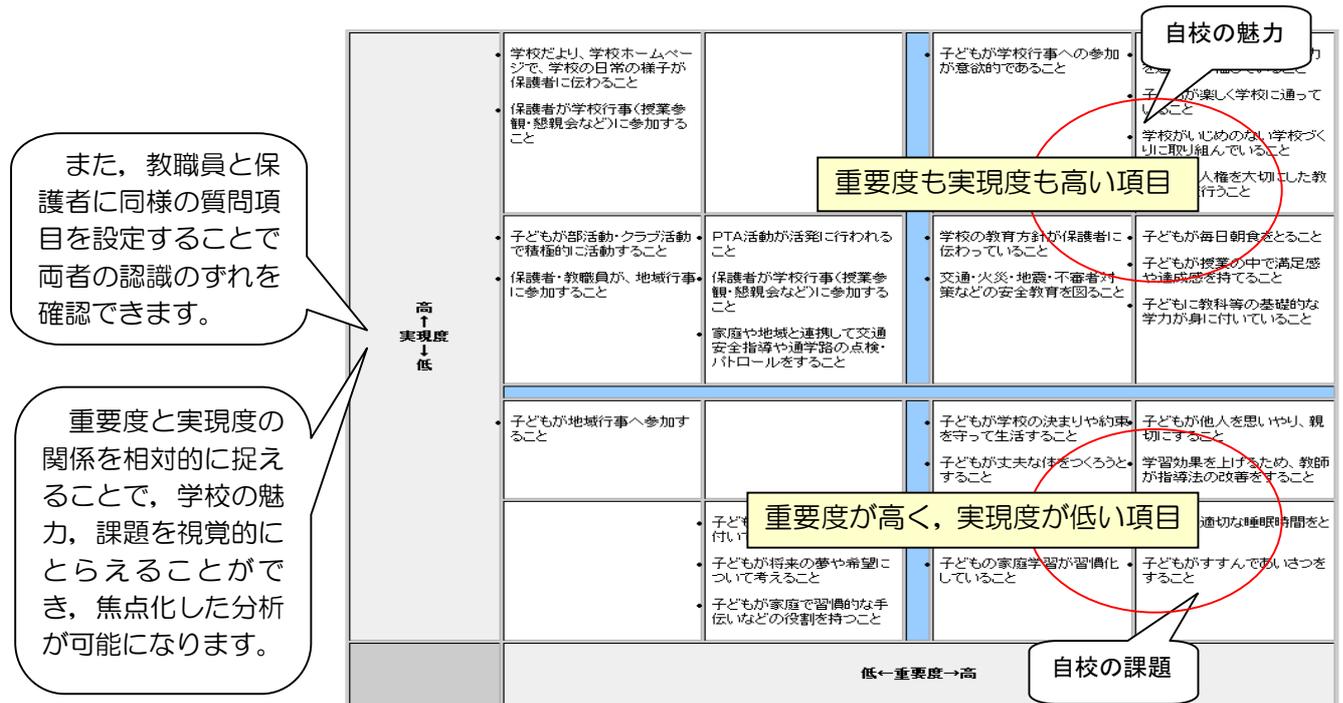
京都市版学校評価支援システムでは、アンケートの中で各項目の重要度と実現度を同時に聞くことにより、学校の魅力・課題を自動的に分析することができる。

質問文	分析結果例		
	▲重要度▼	▲実現度▼	▲ニーズ度▼
子どもが適切な言葉づかいをすること	6.6	3.9	27.1
子どもが丈夫な体をつくろうとすること	6.6	4.4	23.8
子どもが学校の決まりや約束を守って生活すること	6.7	4.6	22.9
子どもが他人を思いやり、親切にすること	6.9		22.5
子どもが楽しく学校に通っていること	6.9		18.4
子どもが将来の夢や希望について考えること	6.3	4.1	24.5
子どもが家庭で習慣的な手伝いなどの役割を持つこと	6.3	3.8	26.2
子どもが部活動・クラブ活動で積極的に活動すること	5.9	5.1	17.4
学校がいじめのない学校づくりに取り組んでいること	6.9	5.3	18.4
学校が、人権を大切にした教育活動を行うこと	6.9	5.6	16.7
学校の教育方針が保護者に伝わっていること	6.5	4.8	20.7
学校だより、学校ホームページで、学校の日常の様子が保護者に伝わること	6.1	5.2	17.1

■ は、重要度が高い項目

■ は、実現度が低い項目

■ は重要度が高く、実現度が低い項目。この項目を重点課題に位置付けるなど、回答に表れた願いを学校の取組に反映させることができます。



(5) 学校経営力向上講座

学校が自律した組織として効果的に機能する特色ある学校経営が強く求められていることを踏まえ、管理職が主体性を持って、学校経営力をはじめとする多様な資質及び力量の向上を図るため、昨年度に引き続き、学校評価に関する講座を実施した。

平成24年度は、児童生徒の現状や課題をもとに、学校・家庭・地域の三者が協働して取り組む重点目標を設定し、それぞれの立場から改善活動を行いながら、児童生徒のよりよい姿を実現する仙台市の「協働型学校評価」について、仙台市教育委員会から人事交流により本市へ派遣されていた本木主任指導主事による講義を中心に実施した。

また、本市の学校評価システムへ応用するにあたり、学校関係者評価委員会としての学校運営協議会や学校評議員の活用策などについての講義も実施し、その後、意見交流会の時間を設け、参加校の学校評価の状況をお互いに確認しあった。

- ・ 日 時 平成25年2月26日(火) 午後2時45分～
- ・ 対 象 管理職、主幹教諭、指導教諭(参加者数63名)
- ・ 内 容 講義①「仙台市における学校・家庭・地域の三者協働による学校評価『協働型学校評価』について」
仙台市教育委員会 教育指導課 主任指導主事 本木 一昭
講義②「『協働型学校評価』の本市の学校評価システムへの応用」
学校指導課 首席指導主事 戸塚 恵美子

意見交流会

- ・ 参加者の感想
 - 仙台市のように第三者による目標設定をするために、具体的にどのように取り組めばよいかを考えたい。
 - 課題意識の共有は意識しているが、なかなか解決に向けての話につながらない部分があった。仙台市における協働型学校評価は参考になる一つの方法だと思った。
 - 意見交流会で他校の取組を聞くことがすごく参考になった。

4 学校評価関係年表

年月	京都市	国
H10年9月		○中教審答申『今後の地方教育行政のあり方について』 「…各学校においては、教育目標や教育計画等を年度当初に保護者や地域住民に説明するとともに、その達成状況等に関する自己評価を実施し、保護者や地域住民に説明するように努めること…」
H12	○「京都市立小学校、中学校及び幼稚園の管理運営に関する規則」「京都市立高等学校の管理運営に関する規則」「京都市立総合支援学校の管理運営に関する規則」改正（学校評議員の設置を明記）	
H12年12月		○教育改革国民会議報告『教育を変える17の提案』 「…地域で育つ、地域を育てる学校づくりを進める。単一の価値や評価基準による序列社会ではなく、多様な価値が可能な、自発性を互いに支えあう社会と学校を目指すべき…」 「…各々の学校の特徴を出すという観点から、外部評価を含む学校の評価制度を導入し、評価結果は親や地域と共有し、学校の改善につなげる…」 ○教育課程審議会答申『児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価のあり方について』 「…各学校が、児童生徒の学習状況や教育課程の実施状況等の自己点検・自己評価を行い、それに基づき、学校の教育課程や指導計画、指導方法等について絶えず見直しを行い改善を図ることは、学校の責務である…」 「…自己点検・自己評価の公表については、地域や学校の実情に応じて、各教育委員会等においてそのあり方を検討することが望ましい。また、公表に当たっては、序列化などの問題が生じないように、十分留意する必要がある…」
H13年4月	○学校評議員を全校・園に設置	
H13年8月	○京都市新世紀教育改革推進プロジェクト「学校評価部会」発足（～平成15年2月）	
H13年9月	○京都市学校評価実践研究協力校7校を指定	
H14年2月		○中教審答申『今後の教員免許制度のあり方について』 「…学校と学校外との双方向のコミュニケーションの成立を確実にするため、学校の自己点検・自己評価の実施とその結果を保護者や地域住民等に公表する学校評価システムを早期に確立することを提言する…」
H14年3月		○小・中学校設置基準 （自己評価の実施と結果の公表が努力義務化。保護者等に対する情報提供を積極的に行うよう規定）
H14年4月	○京都市では学校評価を全校種40校で実施	
H14年11月	○「新しいタイプの学校運営のあり方に関する実践研究」で国が御所南小を指定。同事業の一環として、京都市が独自に高倉小を指定	
H15年3月	○地域教育専門主事室「今求められる学校づくりのために」（実践事例集・ガイドライン）発行	

年月	京都市	国
H15年4月	○学校評価を全校・園で実施	
H15年9月	○「新しいタイプの学校運営のあり方に関する実践研究」の一環として、京都市が独自に京都御池中を指定。すでに指定を受けている御所南小・高倉小と共に実践研究を進める	
H16年3月	○評価結果を全校・園で公表	
H16年11月	○京都市立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則の制定 ○御所南小・高倉小・京都御池中に学校運営協議会を設置	
H17年5月	○学校運営協議会5校設置	
H17年6月		○閣議決定『経済財政運営と構造改革に関する基本方針2005』（義務教育における外部評価の実施と結果の公表のためのガイドライン策定が掲げられる） ○中央教育審議会答申『新しい時代の義務教育を創造する』（大綱的な学校評価ガイドラインの策定が必要と提起）
H17年10月		○中教審答申『義務教育の構造改革』 「…教育の結果の検証を国の責任で行う。具体的施策として全国学力調査と学校評価システムをあげた…「教育の質的向上に寄与する学校評価」という新たな捉え方」
H18年3月	○学校運営協議会17校設置	○文部科学大臣決定『義務教育諸学校における学校評価ガイドライン』（京都市などの事例を基に国の学校評価ガイドライン発表）
H18	○児童・生徒によるアンケート評価を全校実施	
H18年12月	○学校運営協議会に関する専門委員会内に学校評価専門部会（平成19年に学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会に改組）を設置	○「規制改革・民間開放推進に関する第3次答申」（学校教育制度の評価確立が求められる） ○教育基本法改正
H19年1月		○教育再生会議第1次報告『社会総がかりで教育再生を』（保護者等による実効ある外部評価の導入とその結果の公表について提言）
H19年3月	○京都市教育委員会「学校評価実践協力校の実践報告集」発行 ○学校運営協議会60校設置	○初等中等教育局長通知 「…学校評価制度等に係る運用上の工夫等について」（個人情報に配慮した上でホームページ等で評価結果を公表するよう促している） ○中教審答申『教育基本法の改正を受けて緊急に必要な教育制度の改正について』 「…情報提供に関する学校の責務の明確化は、公の性質を有する学校が、自らの説明責任を果たすためにも重要…」 ○文部科学省通知 「…個人情報に配慮した上で、評価結果をホームページ等で公表することを推進する…」

年月	京都市	国
H19	○評価結果のHP公表の徹底	
H19年4月	○「京都市立小学校、中学校及び幼稚園の管理運営に関する規則」「京都市立高等学校の管理運営に関する規則」「京都市立総合支援学校の管理運営に関する規則」改正(学校評価を規則にも明記) ○学校評価ガイドラインの改訂	
H19年6月	○「京都市行政活動及び外郭団体の経営の評価に関する条例」制定 (学校教育活動についても条例の対象とした。全国初)	○学校教育法一部改正
H19年12月	○京都市「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」第1回開催	○「学校教育法施行規則一部改正」 (学校評価を生かした学校改善及び教育水準の向上、保護者・地域住民等への教育活動や学校運営に関する情報の積極的な公開の規定を盛り込む)
H20年1月		○文部科学省『学校評価ガイドライン』改訂 (19年6月の法改正を受けての改訂)
H21年3月	○学校運営協議会 142校設置	
H21年6月	○京都市学校評価ガイドライン【第3版】策定	
H22年3月	○学校運営協議会 163校設置	
H22年7月		○文部科学省『学校評価ガイドライン』改訂 (第三者評価の在り方に関する記述の充実)
H23年3月	○学校運営協議会 171校設置	
H23年11月		○文部科学省『幼稚園における学校評価ガイドライン』改訂 (第三者評価の在り方に関する記述の充実)
H24年3月	○学校運営協議会 184校設置	
H25年3月	○学校運営協議会 192校設置	

Ⅱ 学校での取組事例

学校評価のねらい

学校の教育力・教師の指導力・保護者や地域の教育力を相互に高め合い向上していく。

		評価の検討と実施	学校運営協議会 学校評議員の会	公表の時期と方法
中 間	4	教育指導計画の作成	第1回役員会 ・学校教育方針説明 ・年間計画	学校だより (教育方針の発信)
	5	学校評価実施に向けての企画 評価項目の検討		評価年間計画を ホームページに公表
	6	<休日参観>		
	7			
	8		第2回役員会 評価項目の検討	
	9	児童アンケート 保護者アンケート 教師自己評価 <運動会>	各推進委員会	
	10	評価結果の分析 後期方針の検討	評価実施	学校だより・ホームページ での結果・改善公表
	11	<学芸会>		
	12			
	年 間	1	<自由参観・図工展>	
2		児童アンケート 保護者アンケート 教師自己評価	第3回役員会 ・評価の実施	
3		評価結果の分析 改善策の検討 次年度方針の共通理解	第4回役員会 ・次年度方針の検討	学校だより・ホームページ での結果・改善策公表

学校教育目標 自ら考え 豊かに学ぶ子の育成
--

《目指す学校像》

みんなが輝く 元気で楽しい学校
～心も体も元気が一番！～

《目指す子ども像》

- よく気付き考え 進んで学習する子（確かな学力）
- よさを認め なかよく共にのびる子（豊かな人間性）
- 安全に気をつけ 心身をきたえる子（健やかな体）

《目指す教職員像》 …常に自己を高め 組織で取り組む教職員…

◎子どもに自信をもたせる教職員<学力向上>

- 一人一人に届く授業から指導しきる教職員
- 得意分野を生かし興味関心を高める教職員

◎子どもの個性やよさを認め、引き出し、発揮させる教職員<生徒指導>

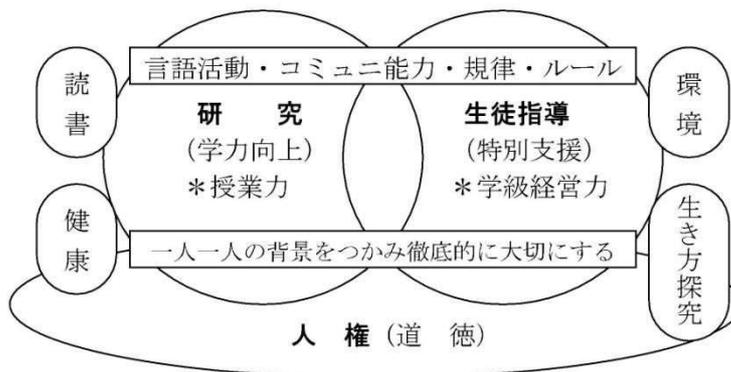
- 親身になって子どもを理解しようとする教職員
- 認め合う仲間づくりをすすめる教職員

◎子どもの健康・安全に気を配り、子どもを守り育てる教職員<健康安全>

- 子ども・家庭やその背景に危機管理意識をもった教職員
 - 健康や食に関する指導を大切にする教職員
- 保護者・地域と共に子どもを育む
- PTA ○学校運営協議会 ○地域の各種団体
 - 山科中学校区地域生徒指導連絡協議会

指導の重点	『指導しきる！』『報告・連絡・相談のチームプレイ』『徹底と検証で成果』
--------------	-------------------------------------

- 学習指導の重点目標…子ども一人一人への深い理解と豊かな教材研究で計画的な学習指導を進め、基礎基本の確実な定着を図る。
- 人権教育の重点目標…違いを認め合い、共に伸びることの大切さを学ぶことを通して、人権尊重の精神を育む。
- 道徳教育の重点目標…相手の立場を理解し、人間としてのあり方や生き方について考え、共に成長する子の育成を図る。
- 生徒指導の重点目標…自らのよさに気付き、周りの人の尊厳を認め、誇りをもって社会生活を営むことができる力を育む。
- 健康教育の重点目標…自他の生命を大切にし、生活習慣を整え、進んで心身を鍛える自立した子の育成。
- 特別活動の重点目標…自主的に取り組む実践力を育成し、個性の伸長を図る。
- 今日的課題への対応
 - ・特別支援教育への理解と実践
 - ・道徳性や社会性の涵養
 - ・言語活動の充実
 - ・環境教育・理数教育の充実
 - ・協力指導体制の確立
 - ・小中一貫教育の推進



1 学校評価のねらい

学校の教育力・教師の指導力・保護者や地域の教育力を相互に高め合い向上していく。

2 山階南小学校の学校評価

(1) 評価手法

教職員・保護者・地域・児童に対するアンケート調査を実施し、アンケート結果のほか、ジョイントプログラムの結果、道徳教育全体計画の実施状況、子どもの言動、早寝・早起き・朝ごはんを含めた生活点検、ハンカチ・ティッシュの所持率、なわとび名人カードの進級状況、給食の残菜ゼロの取組、小中合同研修会の実施、地域人材の活用状況、学校ホームページの更新状況、物を大切にする意識や行動状況等の分析を行い、「学校評価実施報告書」を作成して教育委員会に報告するとともに、ホームページで公表した。

また、教職員・保護者・地域・児童に対するアンケート結果を分析したものは、平成24年11月、25年3月に、学校だよりに掲載した。

(2) アンケート結果等による分析

ア 分かる授業の創造と読書について

「分かる授業」「楽しい授業」が十分に成立しているのか、子どもたちの目線に合った教育活動となっているのかを常に点検する必要がある。児童一人一人が主体的に学習できる授業を目指しているが、まだ十分とは言えない。

読書に関しては、ここ数年連続で読書習慣が根付いていないという結果が出ている。図書室のリフォームを行い、読書環境は一定の整備ができていますが、児童の読書に対する意識を高める取組をさらに進めていきたい。また、児童だけではなく、保護者も読書についての造詣を深めてもらう必要があり、啓発活動を展開したい。

日々の授業に向けて、十分な教材研究を重ねることが一番大切であり、昨年度に引き続き、実技教科を中心に自主研修を年2回実施した。回数を増やし、研修教科も増やしていきたい。

イ 気持ちのよいあいさつと道徳教育の推進について

児童会と生徒指導部の連携により、年間を通して気持ちのよいあいさつができるよう、様々な取組を進めてきた。校内では、自ら進んであいさつができるようになってきた。しかし、家に帰った後や地域の中では十分なあいさつができていない。保護者の中にも、担任にはあいさつを返すが、知らない教職員にはあいさつを返さない方もいる。

場に応じた発言やあいさつができるようになるためにも、引き続き対話型の指導を徹底・発展させていきたい。また、保護者に対しても読書同様、積極的に働き掛ける啓発活動を展開したい。道徳教育に関しては、児童の実態を念頭につけたい力をより明確にして、引き続き道徳教育推進教員を中心に全体計画の見直しと自作教材の作成を進めていきたい。そして、道徳の時間をさらに重視した取組を進めたい。

ウ 小中一貫教育の推進と総合的な学習の時間の充実について

小中の連携は、互いに参観を繰り返すとともに、定例の校長会や各主任会を設定したことで少しずつではあるが深まってきている。今まで以上に、小中の主任等が集まる機会を意図的に作り、小中一貫教育に向け中学校との連携や小小連携をより深化させていきたい。

総合的な学習の時間も年度末に学習内容を全教員で見直し、本校の課題である対話型の指導法についても考えることができた。学習内容が本校児童の生きる力につながっているかは、引続き検証を重ねる。

また、地域人材の一覧表を作成し直し、総合的な学習の時間だけにとどまらず、様々な学習の場面で活用していきたい。

3 自己評価

学校評価実施報告書（27ページ）を参照

4 学校関係者評価

本校の学校関係者評価は、学校運営協議会において年2回（10月、3月）実施しており、評価結果の共有と、その改善策を共有するため、学校だよりやホームページに掲載している。

評価結果では、「児童・保護者評価から見ると、学校生活・日常生活は概ね良好である。」「生徒指導面でも大きな問題もなく、児童の成長がうかがえるが、安心することなくこれからも継続して指導を続けていく。」「他校と比較しても、本校が安定した良い状態であることが分かる。教職員一丸となって、今の状態を維持・伸長させていって欲しい。」「読書活動の充実が、本校の最大の課題であり、保護者への働きかけが弱いのではないか。本の内容についても十分検討したい。」「地域行事への参加が少なく、参加児童が固定され、保護者の参加の少ないことも残念である。児童・保護者ともにもっと参加を呼び掛けて欲しい。」という評価をいただいた。

また、改善に向けた支援策としては、「読書環境を整えるため、教育後援会等の組織を活用し、新しい本の購入を進めていけばよい。活用方法については、さらに学校での取組の充実や工夫に期待する。」「地域行事は児童にとって少しずつ変化をつけながら参加意欲のわく、楽しい活動を考えていきたい。文化的なもの、伝統的なものにも関心をもたせたい。」「総合的な学習や他教科の学習の充実に向け、地域人材による授業支援が必要な場合は、学校運営協議会として全面的に協力する。」という提案をいただいた。

5 総括・次年度に向けた課題等

- (1) 子どもたちの主体的な学びを保障するために、さらなる授業改善を目指し、授業中に「考える活動」や「話し合い活動」の充実を図っていく。
- (2) 時間を有効活用して「仲間づくり」や「協働活動」を重視し、家庭学習や読書活動など家庭との連携で子どもたちの言語活用能力の向上を目指す。
- (3) 地域の様子（生活科・社会科・総合学習など）や地域行事（地場産業・伝統文化など）に関心を高め、地域の一員として意識向上を図りたい。
- (4) 子ども理解を十分に行い、生徒指導が機能する授業を構築したい。そのためには、十分な教材研究や主体的な研修会への参加で、授業力・指導力、さらには人間力を高めたい。

山階南だより 特別号

平成24年11月1日
京都市立山階南小学校
校長 西田 均
山階南小学校運営協議会
会長 直島 進

平成24年度 前期 学校評価アンケート集計

児…児童 保…保護者・地域 教…教職員 (%)

	項目 (質問)	A	B	C	D
①	児 学校生活は楽しいですか。	63.7	28.2	5.8	2.3
	保 子どもは楽しく学校生活を送っている。	56.6	38.2	4.1	1.1
	教 楽しい学級・仲間づくりに取り組んでいる。	75.0	25.0		
②	児 先生の授業は分かりやすいですか。	57.5	35.7	5.5	1.3
	保 授業は分かりやすく工夫されている。	42.4	46.6	9.9	1.1
	教 分かりやすい授業を工夫している。	43.5	47.8	8.7	
③	児 先生に大切にしてもらっていますか。	53.9	34.9	8.7	2.5
	保 教職員は一人一人の子どもを大切にしている。	41.1	44.8	12.6	1.5
	教 自己肯定感を育むように指導を工夫している。	72.0	28.0		
④	児 みんなと仲良く協力していますか。	61.1	30.6	6.5	1.8
	保 学校・学年だよりなどから子どもの学校生活の様子が分かる。	39.7	47.8	11.2	1.3
	教 学年・学級の様子が分かるたよりを工夫している。	43.5	56.5		
⑤	児 友達を大切にしていますか。	62.5	28.5	7.3	1.7
	保 子どもは活躍できる場や認められる場がある。	38.8	45.3	15.2	0.7
	教 一人一人を大切にする人権教育に取り組んでいる。	72.0	28.0		
⑥	児 困った時は先生に何でも相談できますか。	36.5	40.6	15.3	7.6
	保 教職員は子どもからの相談に親身に対応している。	37.0	47.3	13.9	1.8
	教 子どもと何でも相談できる学級づくりをしている。	43.5	56.5		
⑦	児 必ず宿題（や自主勉強）をしていますか。	50.5	30.1	14.2	5.2
	保 子どもに家庭学習をするように声をかけている。	48.0	45.7	5.4	0.9
	教 家庭学習が身につくように、課題を与えている。	54.5	45.5		
⑧	児 家庭でも読書をしていますか。	35.1	26.6	19.5	18.8
	保 家庭でも本を読むように声をかけている。	18.6	43.1	30.6	7.7
	教 読書に親しむ教育環境づくりをしている。	29.2	66.6	4.2	
⑨	児 進んであいさつをし、丁寧な言葉づかいをしている。	38.8	42.9	13.8	4.5
	保 あいさつと言葉づかいに注意をはらっている。	47.1	44.6	7.2	1.1
	教 あいさつや言葉づかいを繰り返し指導している。	64.0	36.0		
⑩	児 学校であったこと・友達のことを家族に話していますか。	56.8	27.4	7.3	8.5
	保 子どもとのふれあいや対話に心掛けている。	43.3	48.6	7.2	0.9
	教 教育目標と目指す子ども像に向けて教育活動に取り組んでいる。	41.7	58.3		
⑪	児 地域主催の学校での取組に参加したいですか。	38.6	27.4	19.9	14.1
	保 P T Aや地域行事に進んで参加するように呼びかけている。	14.3	38.2	33.9	13.6
	教 P T Aや地域行事に参加するなど、連携を大切にしている。	20.0	56.0	24.0	
⑫	児 地域での遊びの時、安全に気をつけていますか。	62.3	25.3	7.2	5.2
	保 安全（交通・防犯）について話をしている。	53.2	38.9	7.0	0.9
	教 放課後の遊びや防犯・交通安全について指導している。	75.0	25.0		

A…よくあてはまる B…あてはまる C…どちらともいえない D…あてはまらない

平成24年度前期学校評価アンケート 集計結果による考察

- ① A評価が増え、子どもたちにとって学校生活は概ね楽しいようだが、昨年度後期と同様、1割程度の児童が気になる回答をしている。今後も継続して教職員がより楽しい学校・学級を目指し、児童の主体的・創造的な活動を重視し自己肯定感を高めたい。
 - ② 昨年度より高い評価を得ているが、まだ十分とは言えない。教員自身がさらに分かりやすく、子どもたちが主体的に学び確かな学力につながる授業を目指していきたい。
 - ③ 子どもたちは概ね先生に大切にしてもらっていると感じているが、昨年度と同様、1割強の児童が気になる回答をしている。子どもの声に耳を傾け、一人一人を徹底的に大切に寄り添うことや、すべての児童が自己実現できる場の工夫をしていきたい。
 - ④ みんなと仲良く協力することは概ねできているようだが、1割弱の児童が気になる回答をしているので、人間関係を細かく見ていく必要がある。子どもたちのよさや可能性を引き出し伸ばすために努力するとともに、学校生活の様子もさらに広報していきたい。
 - ⑤ 友達を大切にしていると感じているようだが、1割弱の児童が気になる回答をしているので、さらに言動に気をつけて人間関係を十分見ていく必要がある。大人も子どもも人権感覚を磨き、言葉遣いなどを見直し、子どもを認めていく機会を増やしたい。
 - ⑥ 2割以上の児童や保護者の期待にこたえることができていない。児童一人一人を徹底的に大切に、子どもや保護者の声に耳を傾ける教職員であり続けるとともに、この現状を厳しく認識し、意識改革を図り、改善していく必要がある。
 - ⑦ 教員は学習習慣の定着を願って家庭学習を意識しているが、現状は不十分である。宿題にとどまらず、一歩進んで予習・復習や自主学習等、家庭学習の充実を図る必要がある。さらに、スキルの内容から個に応じた発展的内容を考慮していきたい。
 - ⑧ 読書習慣の定着が本校の大きな課題の一つである。自ら進んで本に親しむ子どもは限られており、常に読みたい本を手元に置くようにしたい。また、読書の環境づくりの充実も家庭・学校ともに意識して行っていく必要がある。前期終了時に図書室のリフォームを行ったので、児童にとってより使いやすい図書室を作り上げていきたい。
 - ⑨ 子どもたちの挨拶は、昨年度より大きく改善された。さらに、気持ちのよい挨拶や場をわきまえた言動など、よく考えて進んで活動していけるようにしたい。気になる言葉遣いに注意を払い、しっかりとコミュニケーション力をつけたい。
 - ⑩ 8割以上の児童が学校のことをお家の方に話しているようで、大変いいことではあるが、昨年後期と同様、2割弱の児童があまり話していないことが気になる。子どもとのふれ合いも含めて、時間を見つけて子どもとの対話にさらに心掛けていただきたい。
 - ⑪ 地域行事への参加は限られた児童に多く、呼びかけが少なく関心が低いと考えられる。地域の方々とのふれ合いは、学校生活とは違う社会体験もでき、大いに取り入れたい。
 - ⑫ 安全指導については、機会あるごとに指導しているが、自転車等の事故が無くなっていないのも事実である。意識化して行動に移せるまで繰り返しの指導が必要である。冬休みに向けても、防犯や交通安全について話し込んでいく必要がある。
- ◎学校は、まず安全で安心して教育活動が行われるべきで、一人一人を大切にした教育実践を充実していく必要があります。よりよい生き方を学ぶために、さらに優しさと厳しさをもって、学力向上・人間力向上の山階南教育を充実・向上していきます。

山階南だより 特別号

平成25年3月15日
京都市立山階南小学校
校長 西田 均
山階南小学校運営協議会
会長 直島 進

平成24年度 後期 学校評価アンケート集計

児…児童 保…保護者・地域 教…教職員 (%)

	項目 (質問)	A	B	C	D
①	児 学校生活は楽しいですか。	59.2	29.1	9.2	2.5
	保 子どもは楽しく学校生活を送っている。	56.7	34.8	7.1	1.4
	教 楽しい学級・仲間づくりに取り組んでいる。	75.0	25.0		
②	児 先生の授業は分かりやすいですか。	52.1	36.8	8.4	2.6
	保 授業は分かりやすく工夫されている。	41.1	45.3	10.4	3.2
	教 分かりやすい授業を工夫している。	54.1	41.7	4.2	
③	児 先生に大切にしてもらっていますか。	46.9	36.1	12.3	4.7
	保 教職員は一人一人の子どもを大切にしている。	40.9	44.0	12.8	2.3
	教 自己肯定感を育むように指導を工夫している。	59.3	37.0	3.7	
④	児 みんなと仲良く協力していますか。	57.4	32.0	8.4	2.2
	保 学校・学年だよりなどから子どもの学校生活の様子が分かる。	40.9	46.5	10.7	1.9
	教 学年・学級の様子が分かるたよりを工夫している。	41.7	54.2	4.2	
⑤	児 友達を大切にしていますか。	57.4	32.2	7.9	2.5
	保 子どもは活躍できる場や認められる場がある。	35.4	47.9	15.5	1.2
	教 一人一人を大切に人権教育に取り組んでいる。	61.5	38.5		
⑥	児 困った時は先生に何でも相談できますか。	32.3	37.9	21.3	8.5
	保 教職員は子どもからの相談に親身に対応している。	36.6	44.8	16.2	2.4
	教 子どもと何でも相談できる学級づくりをしている。	64.0	36.0		
⑦	児 必ず宿題 (や自主勉強) をしていますか。	51.7	31.9	10.8	5.6
	保 子どもに家庭学習をするように声をかけている。	52.5	39.6	7.0	0.9
	教 家庭学習が身につくように、課題を与えている。	75.0	20.8	4.2	
⑧	児 家庭でも読書をしていますか。	35.9	26.2	18.6	19.3
	保 家庭でも本を読むように声をかけている。	23.1	39.0	31.1	6.8
	教 読書に親しむ教育環境づくりをしている。	25.0	70.8	4.2	
⑨	児 進んであいさつをし、丁寧な言葉づかいをしている。	43.0	38.7	13.7	4.6
	保 あいさつと言葉づかいに注意をはらっている。	48.2	41.7	9.4	0.7
	教 あいさつや言葉づかいを繰り返し指導している。	72.0	24.0	4.0	
⑩	児 学校であったこと・友達のことを家族に話していますか。	49.6	28.7	14.1	7.6
	保 子どもとのふれあいや対話に心掛けている。	34.8	58.8	5.7	0.7
	教 教育目標と目指す子ども像に向けて教育活動に取り組んでいる。	44.0	52.0	4.0	
⑪	児 地域主催の学校での取組に参加したいですか。	32.1	31.8	23.1	13.0
	保 PTAや地域行事に進んで参加するように呼びかけている。	12.2	40.0	38.2	9.6
	教 PTAや地域行事に参加するなど、連携を大切にしている。	40.0	36.0	24.0	
⑫	児 地域での遊びの時、安全に気をつけていますか。	63.1	26.3	5.1	5.6
	保 安全 (交通・防犯) について話をしている。	49.5	43.3	6.7	0.5
	教 放課後の遊びや防犯・交通安全について指導している。	72.0	24.0	4.0	

A…よくあてはまる B…あてはまる C…どちらともいえない D…あてはまらない

平成24年度後期学校評価アンケート 集計結果による考察

- ①子どもたちにとって学校生活は概ね楽しいようだ。しかし、Aが少し減り、B・C評価がやや増えて1割強の児童が気になる回答をしている。今後も継続して教職員がより楽しい学校・学級づくりを目指し、児童の主体的な活動や生きて働く体験活動を重視していきたい。
 - ②前期よりC・D評価が増えている。この評価を真摯に受け止め、教員自身が自己研鑽を図りつつ、さらに分かりやすく、子どもたちが主体的に学び確かな学力につながる授業を目指していきたい。
 - ③子どもたちは概ね先生に大切にしてもらっていると感じているが、2割弱の児童が気になる回答をしている。日々の取組を再点検し、情報収集に心掛け、一人一人を徹底的に大切に寄添うことや、すべての児童が自己実現できる場を実現していきたい。
 - ④1割の児童が気になる回答をしているが、友達と仲良く協力することは概ねできているようだ。今以上に子どもたちの人間関係を細かく見ていく必要がある。また、子どもたちのよさや可能性を引き出し伸ばすために努力するとともに、学校生活の様子もさらに広報していきたい。
 - ⑤若干ではあるが、前期よりA評価が減り、C・D評価が増えている。常に危機感を持ち、引き続き言動などに気をつけて人間関係を十分見ていく必要がある。大人も子どもも人権感覚を磨き、言葉遣いを意識しながら、子どもを認めていく機会を増やしたい。
 - ⑥児童や保護者の期待に十分にこたえることができていない。子どもや保護者の声に常に耳を傾ける教職員であり続けるとともに、意識改革を図り、学級経営等を改善していく必要がある。
 - ⑦教員は学習習慣の定着を願って家庭学習を意識しているが、児童の評価と現状はまだ不十分である。予習・復習や自主学習等、家庭学習の充実を図る必要がある。
 - ⑧前期とほぼ同じ結果がでており、読書習慣の定着が本校の大きな課題の一つである。自ら進んで本に親しむ子どもは限られており、常に読みたい本を手元に置くようにしたい。また、図書室をリフォームしたこの機会を逃さず、読書習慣定着の取組を進めていきたい。
 - ⑨子どもたちの挨拶は、大きく改善され、B評価とA評価の数字が入れ替わっている。しかし、C・D評価の数字は変わらず、全校一致には至っていない。気持ちのよい挨拶や場をわきまえた言動など、よく考えて進んで活動していけるようにしたい。また、家族や顔見知りの地域の方々にも、元気で気持ちのよい挨拶や返事を習慣化したい。
 - ⑩8割弱の児童が学校のことをお家の方にも話しているが、2割以上の児童があまり話していないことが気になる。子どもとのふれ合いも含めて、時間を見つけて子どもとの対話にさらに心掛けていただきたい。
 - ⑪地域行事への参加は限られた児童で、大人の関心が低いためと考えられる。地域の方々とのふれ合いは、学校生活とは違う社会体験もでき、大いに取り入れたい。
 - ⑫安全指導については、機会あるごとに指導しているが、常に意識して行動に移せるまで繰り返しの指導が必要である。春休みに向けて、防犯や交通安全について話し込んでいく必要がある。
- 《学校運営協議会の皆様より》
- *学校全体としては良い方向に向かっている。成果の上がっている取組については継続するとともに、新たな飛躍に向かって取組を進めてほしい。
 - *ゲストティチャーなど、地域や保護者の協力できることを学校側からもっと発信してほしい。地域と学校で手を取り合い、山階南の子どもたちの力を伸ばしていきたい。
- ◎前期終了時に図書室のリフォームを行ったにも関わらず、本校の大きな課題の一つである読書習慣の定着については、前期の学校評価アンケートの結果と比べてもほぼ横ばい状態であり、読書環境のさらなる整備が必要であると考えている。教育後援会等の組織を活用して新しい本の購入を進め、学校での取組を充実していきます。

平成24年度 学校評価実施報告書

(京都市立山階南小学校・園)No.1

1 平成24年度 重点評価項目

- * 子ども一人一人を大切にする教育実践(授業改善・生徒指導)
- * 家庭・地域に根差した学校教育活動(安心安全・地域連携)
- * 子どものよさや可能性を引き出す教育活動(生き方探究・課外学習)

2 1回目評価

2-① 自己評価 【 評価日 : 平成24年9月28日 評価者・組織(名称) : 学校評価委員会 】

分野	評価項目	評価指標	分析(成果と課題)	改善策
1 確かな学力	分かる授業の創造	ジョイントプログラムの結果の分析	児童一人一人が主体的に学習できる授業を目指しているが、まだ十分とは言えない。所属感のある学級経営を行い、楽しく分かる授業を徹底する必要がある。引き続き研修を重ね授業改善を図る必要がある。読書に関しては、ここ数年連続で良くない結果が出ている。読書環境の改善を図っているが、結果からみると不十分と言わざるを得ない。家庭学習に関しては、教師側のねらいが児童や保護者に伝わっていない。ねらいを明確に繰り返し指導する必要がある。	教科主任の提言や学力向上部からの提案を充実したものにしていける。昨年度に続き、実技教科を中心に自主研修を実施している。後期も引き続き実施回数を増やし、研修教科も増やしていきたい。図書室については、今年度、前期終了時にリフォームを図り読書環境の整備をした。学級・学年文庫についても整備し、児童の読書に対する意識を高めていきたい。家庭学習についても、研究部や学力向上チームと共に、系統立てたものを作成していきたい。
	児童の主体的な学習	学習に関するアンケートの意識分析		
	読書活動の充実	学校運営協議会員アンケート		
	家庭学習の習慣化	教職員・保護者・児童アンケート		
2 豊かな心	豊かな心の育成	児童アンケートによる意識調査	児童会と生徒指導部の連携により、年間を通して気持ちの良いあいさつができるよう、様々な取組を進めてきた。地域の方々や来校者に対して、自ら進んであいさつができるようになってきた。地域の方々からも、一定の評価をいただいている。しかし、常に場に合わせたあいさつができていないと言われている。道徳教育推進教員を中心として、道徳教育全体計画の見直しを進めてきたが、まだ十分とは言えない。子どもの言動に目や耳をさらに傾けたい。	場に合わせた発言やあいさつができるようになるため、年度当初より授業中の話型指導を徹底しているが、まだ十分な成果を上げることができていない。道徳教育に関しては、児童に付けたい力をより明確にして、引き続き道徳教育推進教員を中心に全体計画を見直すとともに、児童の実態を鑑みた自作の教材の開発を行う。あたたかい、やさしい声かけのできる学校・学級づくりを行う。
	気持ちのよいあいさつ	教職員・保護者・児童アンケート		
	道徳教育の推進	学校運営協議会員アンケート		
	生活規律の徹底	子どもの言動		
3 健やかな体	基本的な生活習慣の確立	早寝・早起き・朝ごはんを含めた生活点検	昨年度から引き続き、給食の残菜が減り、食に関する関心は深まってきたと考えられる。ただ、ハンカチ等の所持率は低く、就寝時刻も遅い児童が多い。自分の生活や基本的な生活習慣に関する意識は高いとは言えない。欠席数は少ないが、遅刻する児童が多く、気にかかる児童も数多くいる。運動面はなわとびやランニングなどを続け、スポーツテストの結果からも体力の向上がうかがえる。自らの身体の安全は自ら守る、判断力の向上も課題である。	食育の各学年の指導計画を系統立てて作成し、継続した指導を行っていく。生活習慣に関しても、確立に向けて児童への指導と共に保護者にも呼びかけや個別指導・連携を続けていきたい。運動面は、今年度よりスポーツテストを全学年で実施し、体力についての調査を継続・追跡していくことになった。体育部を中心につけたい力を明確にしていきたい。
	体力の向上	ハンカチ・ティッシュの所持率		
	食に関する指導の推進	給食の残菜ゼロの取組		
	安全指導の徹底	けが・病気の分析		
4 学校独自の取組	小中一貫教育の推進	小中合同研修会の実施	小中の連携は、互いに参観を繰り返すとともに、各主任の意見交流の場を数多く設けたことで深まってきた。合同の研修会をもつことが相互理解、関係の深化にもつながってきている。総合的な学習の時間も昨年の年度末に学習内容を全教員で見直し、今年度の内容について考え、少しずつではあるが充実を図ることができている。学校HPについては、学校だより等で再三呼び掛けているが、閲覧件数は伸びていない。	時間的な制約はあるが、小中一貫教育に向け中学校との連携をより深化させていきたい。また、小中の連携も授業参観だけでなくとどまらず、主任等の交流なども行っていきたい。地域人材の一覧表を作成し直し、総合的な学習の時間に活用していきたい。学校HPも今まで以上の情報発信をし、より多くの方に見てもらえるようにしていきたい。
	総合的な学習の時間の充実	地域人材の活用状況		
	情報発信の充実・拡張	学校HPの更新状況		

2-② 学校関係者評価 【 評価日 : 平成24年10月12日 評価者・組織 : 学校運営協議会、学校評議員 (いずれかに○) 】

評価結果	改善に向けた支援策
児童・保護者評価から見ると、学校生活・日常生活は概ね良好である。生徒指導面でも大きな問題もなく、児童の成長がうかがえるが、安心することなくこれからも継続して指導を続ける。教員のC評価が減り、学校長を中心とした学校運営が円滑に進んできている状況が分かる。読書活動の充実が、本校の最大の課題であり、環境を整えることが大切である。地域行事への参加が少なく、参加児童が固定化されているのが残念である。もっと参加を呼び掛けてほしい。	総合的な学習の充実に向け、地域人材による授業支援が必要な場合は、学校運営協議会として全面的に協力する。読書環境を整えるため、周年記念事業や教育後援会等の組織を活用し、新しい本の購入を進めていけばよい。地域行事はややマンネリ化してきている。児童にとって参加意欲のわき、子どもが考え、学べる楽しい活動を考えていきたい。

3 2回目評価

3-① 自己評価 【 評価日 :平成25年3月1日

評価者・組織(名称) : 学校評価委員会

】

分野	評価項目	評価指標	分析(成果と課題)	改善策
1 確かな学力	児童の主体的な学習	ジョイントプログラムの結果の分析	まずは「分かる授業」「楽しい授業」が十分に成立しているか、子どもたちの目線に合った教育活動を常に点検する必要がある。児童一人一人が主体的に学習できる授業を目指しているが、まだ十分とは言えない。自己研鑽を重ね、授業改善に向けて共通認識を深める必要がある。読書に関しては、ここ数年連続で良い結果が出ている。図書室のリフォームを行うなど読書環境の改善を図っているが、結果からみると不十分と言わざるを得ない。家庭学習に関しては、教師側のねらいが伝わっており、習慣化が進んできている。少数ではあるが、家庭学習の定着しない児童に対しての働きかけを強める必要がある。	日々の授業に向けて、十分な教材研究を重ねることが一番大切である。昨年度に引き続き、実技教科を中心に自主研修を実施した。回数を増やし、研修教科も増やしていきたい。読書環境はある一定の整備ができた。児童の読書に対する意識を高めていく取組を進めていきたい。児童だけではなく、保護者も読書についての造詣を深めてもらう必要があり、啓発活動を展開したい。家庭学習については、研究部や学力向上チームと共に、系統立てたものができつつあるが、まだ十分とは言えない。
	分かる授業の創造	学習に関するアンケートの意識分析		
	読書ノートの活用	学校運営協議会員アンケート		
	家庭学習の習慣化	教職員・保護者・児童アンケート		
2 豊かな心	豊かな心の育成	児童アンケートによる意識調査	児童会と生徒指導部の連携により、年間を通して気持ちの良いあいさつができるよう、様々な取組を進めてきた。校内では、自ら進んであいさつができるようになってきた。しかし、家に帰った後や地域の中では十分な挨拶ができていない。保護者の中にも、担任には挨拶を返すが、知らない教職員には挨拶を返さない方もいる。道徳教育推進教員を中心として、本校児童の実態に合わせた道徳の自作教材を作成している。	場に応じた発言やあいさつができるようになるため、引き続き話型指導を徹底・発展させていきたい。また、保護者に対しても読書同様、積極的に働き掛ける啓発活動を展開したい。道徳教育に関しては、本校児童の実態を念頭に付けたい力をより明確にして、引き続き道徳教育推進教員を中心に全体計画を見直しと自作教材の作成を進めていきたい。そして、道徳の時間をさらに重視した取組を進めたい。
	気持ちのよいあいさつ	教職員・保護者・児童アンケート		
	道徳教育の推進	道徳教育全体計画の実施状況		
		子どもの言動		
3 健やかな体	基本的な生活習慣の確立	早寝・早起き・朝ごはんを含めた生活点検	給食の残菜が減り、食に関する関心は深まってきたと考えられる。ただ、学年・学級間の差が大きく担任の指導力にも差が感じられる。学校では何でも食べるが、家では好き嫌いや食べ残もあるようである。自分の健康や規則正しい生活、基本的な生活習慣に関する意識は保護者・児童ともに高いとは言えない。運動面は全校でなわとびや高学年はランニングなどを続け、スポーツテストの結果からも体力の向上がうかがえる。	来年度は食育の各学年の指導計画を確実に作成したい。給食部・保健部・体育部等の分掌が協力し、食育の継続した指導を行っていく。生活習慣に関しても、児童への指導と共に保護者にも呼びかけを続けていきたい。運動面は、本校は全学年でスポーツテストを実施している。体力についての実態を把握し、弱点を継続して補っていききたい。
	体力の向上	ハンカチ・ティッシュの所持率		
	食に関する指導の推進	なわとび名人カードの進級状況		
		給食の残菜ゼロの取組		
4 学校独自の取組	小中一貫教育の推進	小中合同研修会の実施	小中の連携は、互いに参観を繰り返すとともに、定例の校長会や各主任会を設定したことで少しずつではあるが深まってきている。総合的な学習の時間も年度末に学習内容を全教員で見直し、来年度について考えることができた。その学習内容が本校児童の生きる力につながっているかは、引き続き検証を重ねる必要がある。学校HPIについては、学校だよりや懇談会等で再三呼び掛けているが、閲覧件数はHP更新数の割に多いとは言えない。	今まで以上に、小中の主任等が集まる機会を意図的に作り、小中一貫教育に向け中学校との連携や小中連携をより深化させていきたい。地域人材の一覧表を作成し直し、総合的な学習の時間だけでなく、様々な学習の場面で活用していきたい。学校HPの閲覧件数を増やすために、今まで以上の情報収集をするともに情報発信をし、より多くの方に見ていただいで、本校の子どもたちのがんばりを評価してもらえるようにしていきたい。
	総合的な学習の時間の充実	地域人材の活用状況		
	情報発信の充実・拡張	学校HPの更新状況		
	環境教育の実践	物を大切にすること意識や行動		

3-② 学校関係者評価 【 評価日 :平成25年3月13日

評価者・組織 : 学校運営協議会 , 学校評議員 (いずれかに○) 】

評価結果	改善に向けた支援策
児童・保護者評価からみると、学校生活・日常生活は概ね良好である。生徒指導面でも大きな問題もなく、児童の成長がうかがえるが、安心することなくこれからも継続して指導を続けていく。他校と比較しても、本校が安定した良い状態であることが分かる。教職員一丸となって、今の状態を維持・伸長させていってほしい。読書活動の充実が、本校の最大の課題であり、保護者への働きかけが弱いのではないかと。本の内容についても十分検討したい。地域行事への参加が少なく、参加児童が固定され、保護者の参加の少ないことも残念である。児童・保護者ともにもっと参加を呼び掛けてほしい。	読書環境を整えるため、教育後援会等の組織を活用し、新しい本の購入を進めていけばよい。活用方法については、さらに学校での取組の充実や工夫に期待する。地域行事は児童にとって少しずつ変化をつけながら参加意欲のわく、楽しい活動を考えていきたい。文化的なもの、伝統的なものにも関心を持たせたい。総合的な学習や他教科の学習の充実に向け、地域人材による授業支援が必要な場合は、学校運営協議会として全面的に協力する。

4 総括・次年度の課題

- * 子どもたちの主体的な学びを保障するために、さらなる授業改善を目指し、授業中に「考える活動」や「話し合い活動」の充実を図っていく。
- * 時間を有効活用して「仲間づくり」や「協働活動」を重視し、家庭学習や読書活動など家庭との連携で子どもたちの言語活用能力の向上を目指す。
- * 地域の様子(生活科・社会科・総合学習など)や地域行事(地場産業・伝統文化など)に関心を高め、地域の一員として意識向上を図りたい。
- * 子どもの理解を十分に行い、生徒指導が機能する授業を構築したい。そのためには、十分な教材研究や主体的な研修会への参加で、授業力・指導力、さらには人間力を高めたい。

学校評価のねらい

○学校教育目標「すべてにあきらめない心の育成」「人権を大切にし、自己を表現できる力の育成」「継続して取り組める忍耐と積極性の育成」「明日の日本を担う人材育成と誇れる学校と自分づくりの達成」の実現に向けた教育活動について、教職員一人ひとりがその進捗状況と課題を明確に認識する。○教職員による自己評価、生徒や保護者、地域の外部評価を実施し、多面的な評価により現状の正確な把握に努め、よりよい学校を目指して検証し、充実と改善につなげる。○学校が積極的に情報を公開して説明責任を果たし、学校・家庭・地域が一層の連携を図りながら、双方向に信頼関係を高めあうことにつとめる。

		評価の検討と実施	学校運営協議会 学校評議員の会	公表の時期と方法	
中 間	4	教育指導計画書の作成 学校評価の実施に向けた企画 評価項目の検討		学校だより(学校教育方針)	
	5	地域の方へのアンケート		学力向上プランの発信	
	6	保護者アンケート 授業アンケート		休日参観 教育方針等, 再確認	
	7	地域の方へのアンケート 自己評価の実施	第1回開催 学校教育方針の説明等		
	8	評価結果の分析・改善策の検討			
	9	後期方針の検討		学校だより, HP 上で結 果・改善策を発信	
	10				
	11	保護者アンケート 授業アンケート		休日参観 教育方針による経過の検証	
	12	地域の方へのアンケート	第2回開催 学校評議員会による 評価の実施		
	年 間	1	自己評価の実施 生徒アンケート		
		2	改善策の検討, 次年度方針の共通理解		学校だより, HP 上で結 果・改善策を公表
		3			

平成24年度 小栗栖中学校 学校教育目標

学校全体目標

個々の力を重ねあい、自分と学校に誇りを持ち、日本を担える生徒の育成

学校教育目標

「すべてにあきらめない心の育成」
「人権を大切にし、自己を表現できる力の育成」
「継続して取り組める忍耐と積極性の育成」
「あすの日本を担う人材育成と誇れる学校と自分づくりの達成」

めざす生徒像

「元気な挨拶と活気にあふれた生徒」
○自分を大切にし、相手に思いやりを持って行動できる生徒
○自分の夢につながる学習を全力で進められる生徒
○規範意識を育て、心と命を大切に行動ができる生徒
○社会に役立ち、地域で貢献できる生徒
○基礎的な知識・技能を身につけ、主体的に学習に取り組む生徒

学校経営方針

「言葉が通い、心が通い、生徒の未来を拓く教育の推進」
「行きたい学校」を実感できる教育の充実

- 確かな学力の定着を目指した質の高い学習指導の充実
 - ・中1ふりスタ、学習確認プログラムの効果的な活用による学習活動の充実
 - ・家庭学習習慣の定着を図る取組の継続発展
 - ・各教科・領域における言語活動の充実を図る取組を進める
- 心豊かな人間性を持ち、規範意識や人権尊重の精神を育てる
 - ・生徒の心に届く丁寧な生徒指導の充実と先行的生徒指導の実践を行う
 - ・道徳教育の推進及び心の教育の充実を図る
- 健やかな体を育み、心の健康に努め、自尊感情を育てる
 - ・体力・運動能力の向上に係る取組の推進
 - ・保健学習と保健指導の充実に向けた学校保健計画の策定
 - ・食に関する教育の充実
- 小中連携の充実
 - ・教科等指導の連携を図り、継続的な指導に努め、相互の情報交換に努める
- 地域ぐるみの学校づくり
 - ・学校・家庭・地域の役割を認識し、相互教育力及び信頼関係の高揚を図る
- 安心・安全を考え、教育環境の整備に努める
 - ・学校図書館の教育的機能の充実と積極的な活用

1 学校評価のねらい

- (1) 学校教育目標「すべてにあきらめない心の育成」「人権を大切にし、自己を表現できる力の育成」「継続して取り組める忍耐と積極性の育成」「明日の日本を担う人材育成と誇れる学校と自分づくりの達成」の実現に向けた教育活動について、教職員一人一人がその進捗状況と課題を明確に認識する。
- (2) 教職員や生徒、保護者による自己評価、地域の外部評価を実施し、多面的な評価により現状の正確な把握に努め、よりよい学校を目指して検証し、充実と改善につなげる。
- (3) 学校が積極的に情報を公開して説明責任を果たし、学校・家庭・地域が一層の連携を図りながら、双方向に信頼関係を高めあうことにつとめる。

2 小栗栖中学校の学校評価

(1) 評価手法

「京都市版学校評価支援システム」を活用して、教職員・保護者・生徒に対するアンケート調査を実施し、アンケート結果のほか、道徳教育全体計画の実施状況、朝食の摂取率、体育・部活動の充実状況、小中合同研修会の実施状況、昼食指導の徹底状況、学校HPの更新状況をもとに分析を行い、「学校評価実施報告書」を作成して教育委員会に報告するとともに、ホームページで公表した。

また、平成24年11月には休日参観のアンケート結果を分析し、学校だよりに掲載した。

(2) アンケートの分析

ア 分かる授業の創造と家庭学習の習慣化について

アンケート調査によると「先生はわかりやすい授業を行っている」と感じている生徒は9割を超えるようになったが、定着に関しては不安な面が残り、学習確認プログラムなどで具体的な成果が出るよう各学習の相乗効果について検討すべきである。家庭学習については、家庭学習のシステム化を図ったことで、徐々に習慣化ができる生徒が増えている。

今後も学習確認プログラムへの取組強化と授業改善の取組を充実させる事に取り組み、家庭学習についての課題検証と各教科の学習課題、放課後補習の取組との関連に対する見直しを行う。また、今年度からはじめたポスターセッション（ポスターを使って自分の研究を単に発表するだけではなく、聞き手から出る質問の意図を理解しようとし、自分の考えを伝え、コミュニケーション能力を向上させる学習）等の言語活動を充実させるための取組について、各教科を中心にあらゆる教育活動の中で包括する方向性で検討していく。

イ 規範意識の形成について

「学校は、生徒の間違った行動に対して適切に指導している」と8割以上の保護者が感じており、教職員から見ても、学校行事や日常における規範意識の向上が認められる。また、登校時のあいさつについてももしっかり行う生徒が増えており、アンケート結果でも8割以上が肯定的回答をしている。

学校行事における取組を整理し、達成感や自己有用感を体感させながら感動を持たせ、豊かな心を持たせる取組を今後も進めていく。保育園や小学校との交流は、生徒に豊かな心をはぐくむ一助となっており、異世代関係の中で効果的に生徒の意識変革に寄与し、相手の立場への理解や生命の尊重についての意識を高めさせることができている。今後はさらに、自己の発言機会をあらゆる場面で増加

させていく。

ウ 小中一貫教育の推進について

小中一貫教育の推進については、小栗栖小学校、小栗栖宮山小学校、石田小学校、小栗栖中学校の4校合同で、夏季研修をはじめ授業についての研修会を年間で複数回持つことができた。月1回小栗栖中学校ブロックの校長同士で意見交換会の場を持ち、学校状況についての様々な情報交換もできた。

また、今年度も学力向上の重点支援校として、市教委も参加した学力に関する合同会議を開き、家庭学習のシステム化による成果についても共有することができた。来年度も、言語活動の充実を目指して、堀川高校と連携したポスターセッションの取組、リニューアルした図書室の積極的な活用、良いノートの取り方を校内に掲示するなどして、生徒たちの学習意欲の向上に取り組みたい。

3 自己評価

学校評価実施報告書（34ページ）を参照

4 学校関係者評価

本校の学校関係者評価は、学校評議員会において年2回（7月、11月）実施しており、評価結果と改善策を共有するために学校だよりやホームページに掲載している。

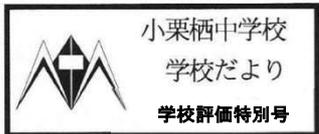
評価結果では、「学校図書館がよく整理され、新聞などを手にする生徒が増えたのは良いことだ。」、「授業時間に生徒たちが静かに取り組んでいる姿を見ることが増えた。」、「部活動が活発に行われているのが良い。」、「女子の服装でスカートが短い子が気になる。」という評価をいただいた。

また、改善に向けた支援策としては、「地生連との連携の中で規範意識を高めてはどうか。」、「地域の中で、読み聞かせなどをしている人がいるので連携を検討してはどうか。」、「授業を参観できる日を増やしてはどうか。」という提案をいただいた。

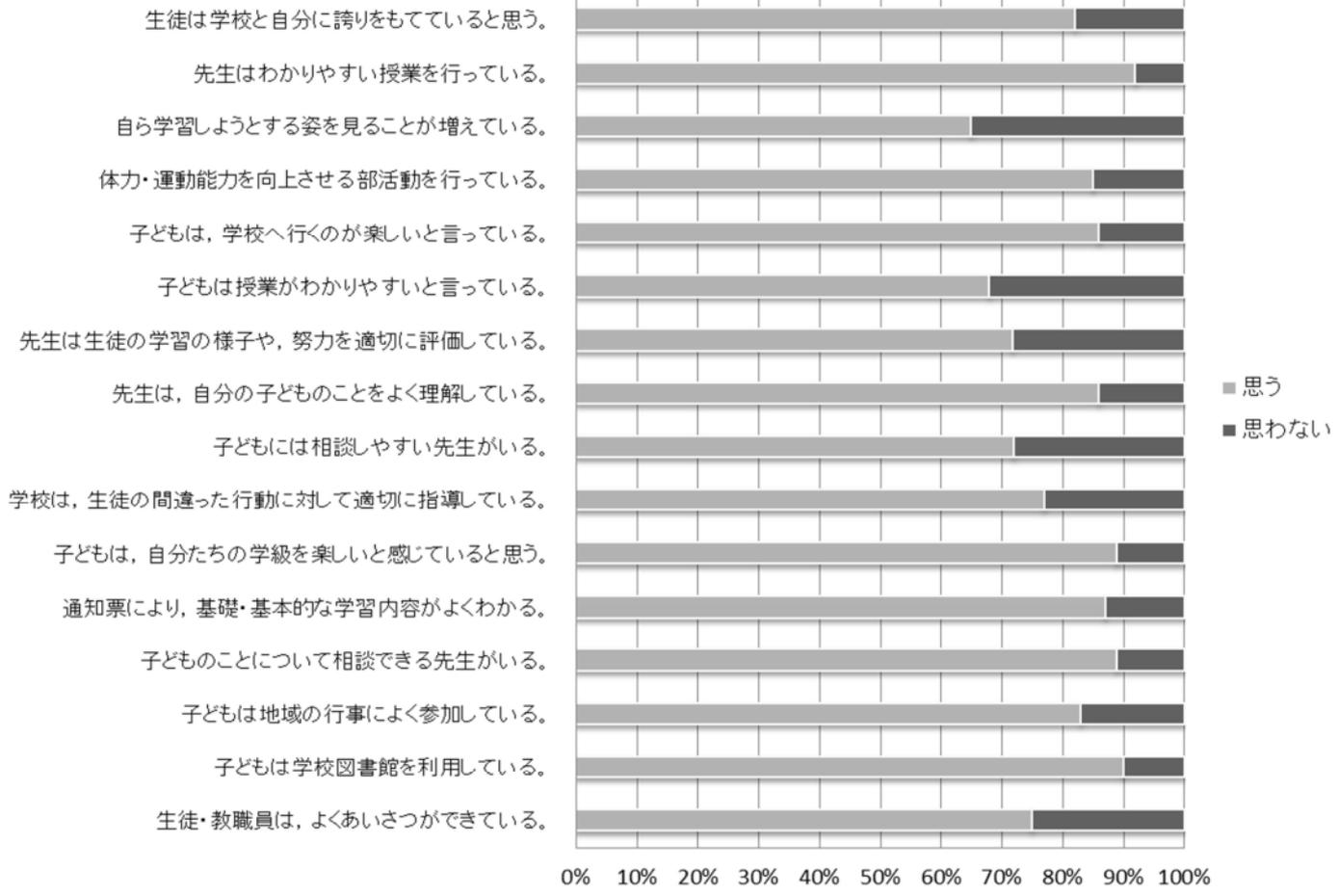
5 総括・次年度に向けた課題等

- (1) 今年度は、学力向上重点校の取組を中心として積極的な小中連携を行う事が出来た。
- (2) 地域及び家庭環境が厳しい生徒たちに「学びの場」を与え、穏やかに過ごせる学校環境の整備を推進した。
- (3) 次年度からの公立高校入学選抜制度の改正に伴い、より一層確かな学力が必要である現状を踏まえて、今までの取組を再確認していきたい。

小栗栖紀行



秋季 休日参観アンケート結果のお知らせ



学校から

保護者アンケートの結果を見ると、学校教育目標に従い、全般的には概ね保護者の願いに即応した取組が出来ているように感じられます。しかし、平成24年度から本格実施された学習指導要領のねらいを踏まえて、授業改善に取り組み、先生の授業が分かりやすいと感じる生徒を増加させる必要があります。また、自ら学習に向かおうとする生徒が従来少なかった中、家庭学習の取組を各学年が精力的に行っていることで改善の兆しは感じられるものの、なお一層の努力が必要な状況下にあります。

一方、昨年度から取り組んできた学校図書館の改善によって利用者が増えていることは、生徒一人一人の言語活動の向上に寄与していくものと考えられ、今年度以降、さらに活用回数を増やしていきたいと思えます。全体的には「子どものことについて相談できる先生がいる」あるいは、「子どもは、自分たちの学級を楽しんでいると思う」という部分について、良い印象を感じていることはうれしい限りです。今後も、授業改善に取り組み、生徒たちが「安心・安全」を感じながら、一人一人の将来に向けた学習に取り組める環境が達成できるような取組を進めていきたいと考えております。

学校関係者評価から

学校評議員として活動していただいている方々に、学校関係者評価として小栗栖中学校の教育活動を見ていただき、「学校図書館がよく整理されており、新聞などを手にする生徒が増えたのは良いことだ」、「地域行事によく参加してくれる子どもが増えている。地生連と学校がさらに連携し、規範意識を高める取組を増やしていきたい」など、学校をよりよくしていただくための御意見をいただきました。

平成 24 年度 学校評価実施報告書

1 平成24年度 重点評価項目

- ・確かな学力の定着を目指した学習指導の充実
- ・自尊感情を高め、心に響く生徒理解、生徒指導の充実

2 1回目評価

2-① 自己評価 【 評価日 : 平成24年7月16日 評価者・組織(名称) : 全教職員 】

	分野	評価項目	評価指標	分析(成果と課題)	改善策
1	確かな学力	コミュニケーション能力の育成	生徒による学習アンケート調査	朝読書や家庭学習の定着をはかり、一定の習慣化が見られた。アンケートで「授業が分かりやすい」と感じている生徒・保護者とも7割を超え、一定の成果が見られるが、残り4分の1への手立てについて、定期テスト・学習確認プログラムなどの分析を進め、授業改善につなげていく。家庭学習の習慣化についてはアンケートで6割を超え、昨年度の5割より定着が進んでいる。	家庭学習課題のまとめテストや再テスト、放課後補習の取組の授業とリンクさせた効果的な方法の検討。コミュニケーション能力の向上に向け、授業の中で音読や発表、結論と理由を述べるような取組をさらに充実させる。
		わかる授業の創造	教職員・生徒アンケートの意識分析		
		家庭学習の習慣化	教職員・保護者・生徒アンケート		
2	豊かな心	豊かな体験活動の実践	生徒による学習アンケート調査	学校全体で規範意識の向上を進め、あいさつや言葉遣いなどで改善が見られた。アンケートでは「よくあいさつをしている」と「先生は間違った生徒の行動を適切に指導している」がともに8割を超えている。道徳の時間を有効的に活用している。	行事や体験活動を基にした絆作りの取組をさらに発展・充実させたい。体験活動で感じたことを、自らの言葉で表現する場を充実させていきたい。(ポスターセッション形式など)
		しっかりとあいさつができる	教職員・保護者・生徒アンケート		
		豊かな心の育成	道徳教育全体計画の実施状況		
3	健やかな体	基本的な生活習慣の確立	朝食の摂取率	朝食を抜く生徒については、部活動での指導も含めて改善してきているが、まだ一定の割合の生徒に見られる。引き続き家庭への発信を行っていきたい。運動部に参加する生徒が7割を超えるようになり、体力向上に一定の前進が見られている。ただし、まだまだ基本的な生活習慣の改善は大きな課題のひとつである。	小中の連携を通して、規則正しい生活習慣の定着を図ることが課題である。保健便りなどを通じて、保護者への発信を強めたい。体育、部活動指導の双方で安全面での指導の徹底が必要である。
		体力の向上	体育、部活動の充実		
4	学校独自の取組	小中一貫教育の推進	小中合同研修会の実施	小中連携については、合同研修会、合同クリーン活動など、充実した取組ができた。食育については、学校での学びを試食会などを通して家庭での食生活に活かす取組を始めたところである。HPについては、積極的に更新しており、大きな行事の時期では閲覧状況が伸びている。	小中連携については、授業体験、部活動体験などを実施していきたい。食育については、PTAとの連携を一層強化し、食についての意識を高め、充実を図っていきたい。HPについては、さらに内容の充実を図りたい。
		食育の推進	昼食指導の徹底		
		情報発信の充実	学校HPの更新状況		

2-② 学校関係者評価 【 評価日 : 平成24年7月12日 評価者・組織 : 学校運営協議会 , 学校評議員 (いずれかに○) 】

評価結果	改善に向けた支援策
<ul style="list-style-type: none"> ・朝読書、家庭学習(毎日の宿題)が周知されてきている。 ・子どもは学校が楽しく、授業や部活動にがんばって取り組んでいる。 ・子どもたちは、大きな声であいさつができています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校外における生徒の問題行動への対応。 ・基礎学力の向上に向け、更に朝読書や家庭学習の充実を図っていく。 ・規範意識の向上に向けて、望ましい言葉遣い、決まりを守ることの大事さを教える。

3 2回目評価

3-① 自己評価 【 評価日 : 平成25年1月23日

評価者・組織(名称) : 学校評議員会

	分野	評価項目	評価指標	分析(成果と課題)	改善策
1	確かな学力	コミュニケーション能力の育成	生徒による学習アンケート調査	家庭学習のシステム化を図り、徐々に習慣化が出来る生徒が増えている。 アンケートで「先生はわかりやすい授業を行っている」と感じている生徒は9割を超えるようになったが、定着に関しては不安な面が残り、学習確認プログラムなどで具体的な成果が出せるよう各学習の相乗効果について検討すべきである。	学習確認プログラムへの取組強化と授業改善の取組を充実させる事に取り組む。家庭学習課題の検証と各教科の学習課題、放課後補習の取組との関連に対する見直しを行う。言語活動を充実させるための取組を各教科を中心にあらゆる教育活動の中で包括する方向性について検討する。
		わかる授業の創造	教職員・生徒アンケートの意識分析		
		家庭学習の習慣化	教職員・保護者・生徒アンケート		
2	豊かな心	豊かな体験活動の実践	生徒による学習アンケート調査	「学校は、生徒の間違った行動に対して適切に指導している」と8割以上の保護者が感じている。学校行事や日常における規範意識の向上が認められる。また、登校時のあいさつはしっかり行う生徒が増えている。保育園や小学校との交流が生徒に豊かな心をはぐくむ一助となっている。また、道徳学習が少しずつ進んでいる事は、生徒に良い影響を与えている。	学校行事における取組を整理し、達成感や自己有用感を体感させながら感動を持たせ、豊かな心を持たせる取組を進める。小学校との交流や保育園との交流が異世代関係の中で効果的に生徒の意識変革に寄与し、相手の立場への理解や生命の尊重についての意識を高めさせる。さらに、自己の発言機会をあらゆる場面で増加させる。
		しっかりとあいさつができる	教職員・保護者・生徒アンケート		
		豊かな心の育成	道徳教育全体計画の実施状況		
3	健やかな体	基本的な生活習慣の確立	朝食の摂取率	朝食を食べずに登校する生徒は依然少なくない。家庭環境に起因するところは大きいが保健室とも連携を取りながら啓発に努めたい。「体力・運動能力を向上させる部活動を行っている」と8割以上の保護者が感じられている。今年度男子では3年生で4センチ以上の身長伸びがあり、運動部での食に対する意識付けも効果的である。	小中の連携を通して、学力向上のための連携をさらに深め、これにとどまらず部活動等を通して共に活動する機会の拡充について検討を行う。また、保健便りなどを効果的に活用し、保護者への啓発に努めたい。体育、部活動指導の双方で安全確保の徹底に努める。
		体力の向上	体育、部活動の充実		
4	学校独自の取組	小中一貫教育の推進	小中合同研修会の実施	小中連携については、授業についての合同研修会を行い、夏季研修では4校の連携をさらに深められた。また、学力向上重点校として年間を通して情報交換を適切に行う事が出来た。開かれた学校を目指し、PTAと共催で、行政の協力も得て地域に必要な自転車教室をスクエアード方式で実践でき、これをHP等で積極的に発信するなど地域理解を深められるよう取り組めた。	小中連携については、学力向上を発達段階に応じて系統的に取り組み、授業体験、部活動体験などは各小学校の特色も考えながら効果的に実施していきたい。食育については、PTAとの連携を図り、生徒の健康の保持・増進に努める。HPは積極的に活用を行う。
		食育の推進	昼食指導の徹底		
		情報発信の充実	学校HPの更新状況		

3-② 学校関係者評価 【 評価日 : 平成25年11月10日 評価者・組織 : 学校運営協議会、学校評議員 (いずれかに○) 】

評価結果	改善に向けた支援策
<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館が良く整理されているが、新聞などを手にする生徒が増えたのは良い事だ。 ・授業時間に生徒達が静かに取り組んでいる姿を見る事が増えた。 ・部活動が活発に行われているのが良い。 ・女子の服装でスカートが短い子が気になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地生連との連携の中で規範意識を高めてはどうか。 ・地域の中で、読み聞かせなどを行っている人がいるので連携を検討してはどうか。 ・授業を参観できる日を増やしてはどうか。

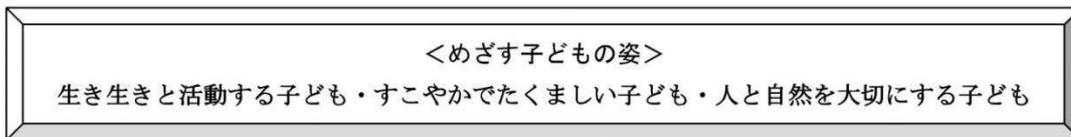
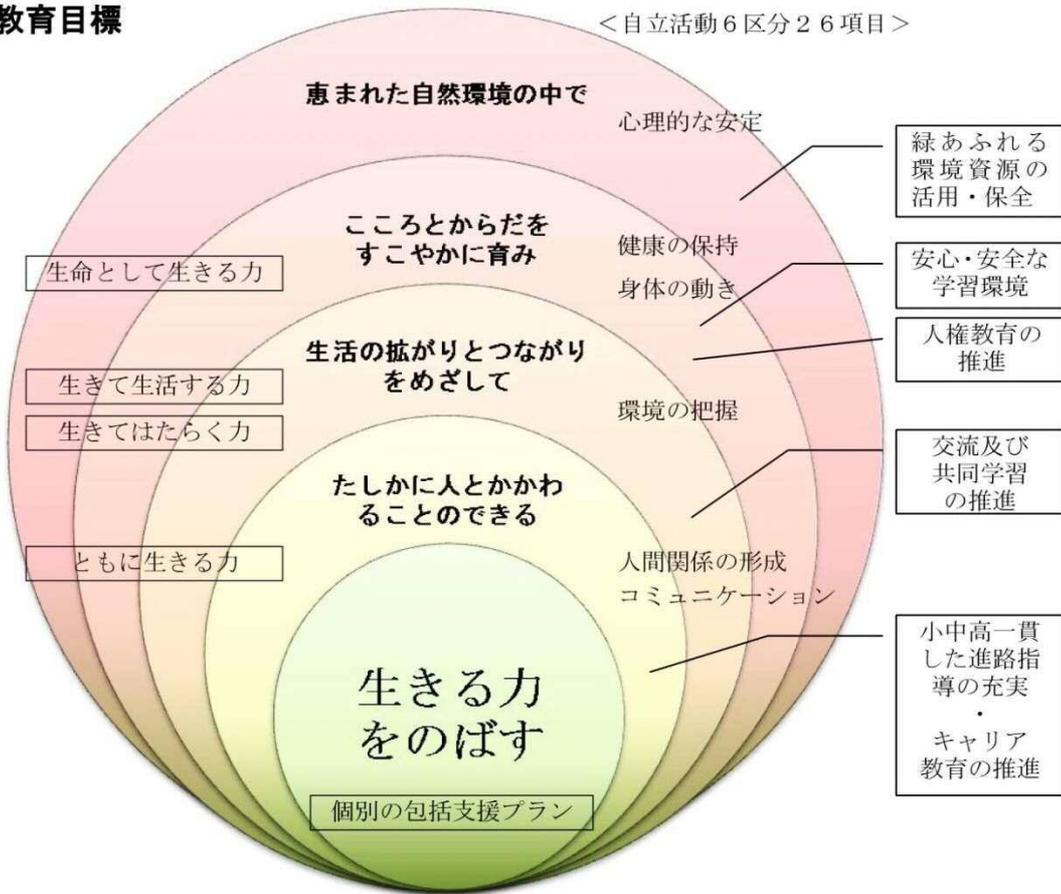
4 総括・次年度の課題

今年度は、小中連携を学力重点校の取組を中心に積極的な連携を行う事が出来た。しかし、次年度からの公立高校入学選抜制度の改正に伴い、より一層確かな学力が必要である現状を踏まえて、取組を再確認していきたい。また、地域及び家庭環境が厳しい生徒たちに「学びの場」を与え、尚且つ、穏やかに過ごせる学校環境の整備を図りたい。また、生徒への「確かな学力」を身につけさせる為の取組を進捗させていきたい。

【学校評価のねらい】 学校教育目標の達成状況を，児童生徒の姿を見据え，学校総体として明らかにすることを通して，学校教育の充実・向上につなげていく。また，学校・家庭・学校関係者が，自らの行動を振り返る機会とし「評価」を通じて相互に補い合い，連携を深めていくことを目指す。

		評価の検討と実施	学校運営協議会 学校評議員の会	公表の時期と方法
中 間 年 間	4	平成24年度 東総合支援学校 学校評価についてアウトラインの企画開始		
	5	24年度学校評価のアウトライン提案	学校関係者（学校運営協議会委員）による確認・承認	学校ホームページにて公表
	6			
	7	「学校評価アンケート」作成		
	8	「学校評価アンケート」作成 「学校評価アンケート」の内容の周知と公表		
	9	「前期学校評価アンケート」による中間点検の実施		
	10	集約・分析し改善策の検討（自己評価） 前期学校評価報告書の作成・報告	「前期学校関係者評価」の実施	学校ホームページにて公表
	11			
	12			
	1	「後期学校評価アンケート」による年間評価の実施		
年 間	2	集約・分析し改善策の検討（自己評価）	「後期学校関係者評価」の実施	
	3	24年度後期学校評価報告書の作成・報告 次年度に向けた改善策の検討		学校ホームページにて公表

学校教育目標



学校評価

1 学校評価の目的

京都市立東総合支援学校 学校教育目標の達成状況を、児童生徒の姿を見据え、学校総体として明らかにすることを通して、学校教育の充実、向上につなげていく。また、学校、家庭、学校関係者が、自らの行動を振り返る機会とし、「評価」を通じて相互に補い支え合い、互いに連携を深めていくことを目指す。

2 学校評価の進め方

- ① 教職員によるアンケート
- ② 保護者によるアンケート
- ③ 児童生徒によるアンケート

以上①～③をもとに「自己評価」の実施

- ④ 「自己評価」をもとに「学校関係者評価」の実施



1 学校評価のねらい

- (1) 個別の包括支援プラン（児童生徒一人ひとりについて、本人・保護者・指導者の願いを実現するため、発達や障害の状態だけでなく、生活の様子などを踏まえ、長期目標及び短期目標・指導内容について作成するプラン）の視点に基づき、児童生徒、教職員、保護者が三位一体となった「生きる力」を育む教育の充実
- (2) 児童生徒一人ひとりにとって安心安全で、意欲の高まる美しい学習環境づくり
- (3) 自他の生命を尊び、自尊感情を高め、互いに支え合い、ともに心豊かに生きることを目指す人権教育の充実
- (4) 他校種連携と交流及び共同学習の推進
- (5) 小・中・高一貫した計画的組織的な進路指導による適性に応じた進路選択と社会参加の実現
- (6) 校務分掌組織の機能的な運用と、迅速な情報共有・課題解決による組織的な学校経営
- (7) 保護者や地域の方々、大学関係者、産業界等の積極的な参画を得た、地域ぐるみ市民ぐるみの学校づくり
- (8) 総合育成支援教育に関する専門性の向上によるセンター機能の充実

2 東総合支援学校の学校評価

(1) 評価手法

教職員・保護者・地域・児童生徒に対するアンケート調査を実施し、アンケート結果のほか、個別の包括支援プラン分析、学習活動状況、道徳教育及びキャリア教育の実施状況、給食活動・自立活動実施状況、地域連携活動状況、学校運営協議会協議をもとに分析を行い、「学校評価実施報告書」を作成して教育委員会に報告するとともに、ホームページで公表した。

また、教職員・保護者・地域・児童生徒に対するアンケート結果を分析したものは、平成24年12月に学校だよりの特別号として掲載した。

(2) アンケートの分析

ア 小・中・高一貫した計画的組織的な進路指導による適性に応じた進路選択と社会参加の実現について

キャリア教育を中心に日常生活及び働くことを意識した清掃活動、校内美化についての取組が進められている。人との関わりについては、重要性について教職員・保護者とも感じているが評価にはばらつきがあり、児童生徒同士の横の関係の広がりがまだ不十分である。教師主導ではなく児童生徒を中心とした仲間同士の学習の展開が課題となっている。

今後も全ての学習活動を通して一人ひとりのキャリア発達を支援し、計画的・組織的な進路指導の充実のためのシステムの構築を目指していきたい。

イ 児童生徒一人ひとりにとって安心安全で、意欲の高まる美しい学習環境づくり

児童生徒の健康・保健に関する取組については、おおむね教職員・保護者とも評価しており、日常生活における体づくりや保健室を中心とした取組ができている。しかし、日常の整理整頓を含めた環境整備や安全についての課題が挙げられ、教職員及び児童生徒全体での環境整備に対する意識の向上

が望まれている。

手入れの行き届いた安全で美しい学習環境の整備はもちろんのこと、児童生徒個々の身体状況の把握と保健室及び関係機関との連携の充実、野外学習場「ひかりの森」を含む豊かな自然環境の活用と保全を進めていきたい。

ウ 保護者や地域、大学、産業界等の積極的な参画を得た、地域ぐるみ市民ぐるみの学校づくり

学校と地域の連携は様々な形で行っているが、教職員全体としての意識はまだまだ高まりきれていない。また、学校内での教育にとどまり、広い視野での社会生活を見据えた新しい教育活動を展開しようとする意識も育ちきれていない。

支援部を中心とした関係機関とのネットワークの強化や学校運営協議会を中心とした地域ネットワークの拡充と協働活動の展開を行っていきたい。

3 自己評価

学校評価実施報告書（41ページ）を参照

4 学校関係者評価

本校の学校関係者評価は、学校運営協議会において年2回（10月、3月）実施しており、評価結果の共有と、その改善策を共有するため、学校だよりやホームページに掲載している。

評価結果では、「できるという評価の数値が伸びていないのは、まだまだ改善の余地があり、課題を明確にして具体的に組みんでいくことが望まれる。しかし数値にだけ左右されるのではなく、それを学校としてどのように分析し、捉えていくのが大切である。」「学校と地域と一緒に協力し、できる活動があれば、共に組みんでいくためにも、学校からもっと様々なことを発信する必要がある。学校のことをもっと知って、ともに活動する場所や機会があれば地域と学校との関係はもっと密接になる。」「これまで地域との関係をもとに培ってきた、様々な財産をもとに、それをいかに活用して長いスパンで学習活動を考えていく方策が必要である。従来の学校の中だけの活動ではなく、様々なことを結びつけて、面としての活動に広げていくことが望まれる。」という評価をいただいた。

また、改善に向けた支援策としては、福祉・医療・大学・地域等の各機関とのネットワークの構築、地域及び連携機関との協働での取組の展開、学校運営協議会との具体的な連携内容の検討・実施、開かれた学校づくりのための広報及び情報発信と情報共有の工夫について提案をいただいた。

5 総括・次年度に向けた課題等

- (1) 個別の包括支援プランの内容の充実と質の向上を図り、そこから引き出される個々のねらいを明確にした取組の充実及び個々のニーズに応じた学習の工夫と柔軟な指導内容及び指導形態の対応
- (2) 地域と連携した開かれた学習の展開
- (3) 小・中・高の系統だった計画的な成長を積み上げるためのキャリア教育の充実と展開

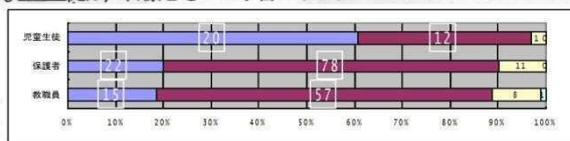
平成24年度京都市立東総合支援学校 中間評価アンケート報告

平成24年度中間期学校評価アンケート実施につきまして、保護者の皆様には多数ご協力いただきましてありがとうございました。お答えいただきました内容につきまして、結果を中間報告という形でまとめさせていただきましたのでご報告させていただきます。

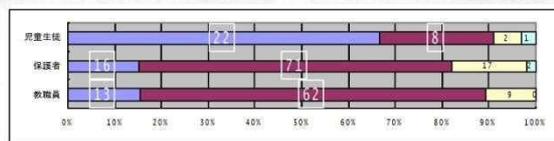
今回の中間評価においては昨年度との比較においても、ほぼ大きな変化は無く、すべての項目において「大体できている」との評価が見られます。しかしその中で、全体の中での重要度と実現度に着目すると、実現度において平均値より低い評価となっている項目がいくつか見られます。今回はその項目に着目し、中間評価の分析を行いました。

○ 個別の包括支援プランの内容の充実と質の向上を図りそこから引き出される個々のねらいを明確にした取組の実及び個々のニーズに応じた学習の工夫と柔軟な指導内容及び指導形態の対応

（児童生徒は、目標をもって学習に取り組んでいる） H24



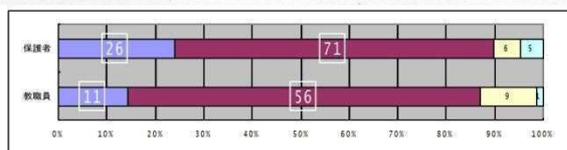
(H23)



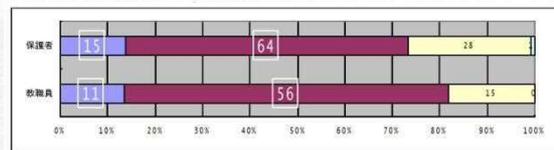
保護者の評価からは、学習の評価や学習目標・週ごとの計画について伝えているという項目については、たいへん実現度が高いとの評価を受けています。しかしその反面、児童生徒は目標を持って学習に取り組んでいる・生きる力を身に付けている・実態に即した指導法の工夫に取り組んでいるという項目については、教職員・保護者共に実現度の評価が低くなっています。これは、子どもの実態に即した学習にもっと迫っていく必要があるとの双方の思いが評価に表れていると考えます。

○ 地域と連携した開かれた学習の展開

（保護者は、学校と連携して、家庭での教育活動を進めている） H24



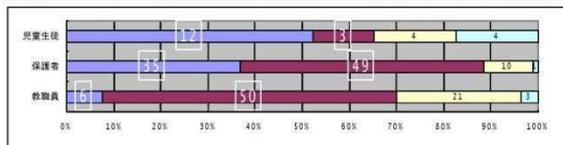
(H23)



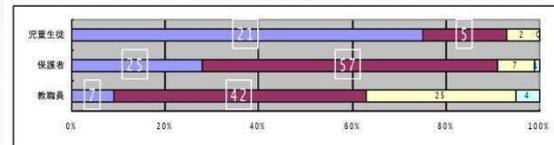
保護者・教職員共に家庭との連携や学校教育への参加の項目については実現度の評価が低くなっています。また交流及び共同学習においても実現度の評価が低くなっています。地域生活において積極的に活動を広げていくことが求められていると考えます。地域行事への参加も含め、学校内だけでなく、地域の中で共に活動する内容や機会・場所を広く求め、展開していくことが望まれます。

○ 小・中・高の系統だった計画的な成長を積み上げるためのキャリア教育の充実と展開

（キャリア教育の観点が各学部での教育活動に反映されている） H24



(H23)



キャリア教育については、保護者からは、ほぼ平均的な評価をいただいているのに対して、教職員については、実現度の評価が最も低くなっています。これは、児童生徒の年齢に応じた発達の見点や学習活動の工夫、障害特性に応じた適切な支援の工夫について、より課題意識を持って取り組まなければいけないという教職員の意識が評価に現れてきていると見られます。児童生徒の長期的な成長を見据えた実態把握や目標設定をもとに、系統立てた学習の工夫と展開を、さらに求めていきたいと考えます。

*アンケート結果については学校ホームページにも掲載させていただいておりますのでご覧いただければと思います。今回の中間評価の結果を受け、本校では校内学校評価委員会及び学校運営協議会学校評価部会を中心に検討し、課題改善に向けた取組を進めていきます。保護者の皆様には今後も様々なご意見をお寄せいただき、ご協力いただく中で、「魅力ある東総合支援学校」づくりに引き続き応援をいただきますようよろしくお願いいたします。

1

<p>【学校評価の8つの視点】</p> <p>①「個別の包括支援プラン」の視点に基づき、児童生徒、教職員、保護者が三位一体となった「生きる力」を育む教育の充実</p> <p>②児童生徒一人ひとりにとって安心安全で、意欲の高まる美しい学習環境づくり</p> <p>③自他の生命を尊び、自尊感情を高め、互いに支え合い、ともに心豊かに生きることを目指す人権教育の充実</p> <p>④他校種連携と交流及び共同学習の推進</p> <p>⑤小・中・高一貫した計画的組織的な進路指導による適性に応じた進路選択と社会参加の実現</p> <p>⑥校務分掌組織の機能的な運用と、迅速な情報共有・課題解決による組織的な学校経営</p> <p>⑦保護者や地域の方々、大学関係者、産業界等の積極的な参画を得た、地域ぐるみ市民ぐるみの学校づくり</p> <p>⑧総合育成支援教育に関する専門性の向上によるセンター機能の充実</p>
--

2 1回目評価

2-① 自己評価 【 評価日 : H24.10.12 評価者・組織(名称) : 学校評価委員会】

41

分野	評価項目	評価指標	分析(成果と課題)	改善策
1 確かな学力	①③④⑤	教職員・保護者・生徒アンケート 個別の包括支援プラン分析 学習活動状況	個別の包括支援プランを中心とした学習の展開については教職員・保護者とも重要性を強く感じているが、双方とも評価が「大体できている」とどまり、より内容を深め実現していこうとする教職員の意識が弱い。特に児童生徒が生きる力を身に付けているという評価について保護者の評価が低く、学習目標の達成に課題がある。また教職員自身も十分やり切れていないという不完全燃焼状態が見られる。	・柔軟な学習活動の運営 ・保護者との課題の共有による、家庭生活・地域社会を見据えた児童生徒の生活状況の把握と学習課題の設定 ・授業時間の厳正な取扱い ・明確な目的意識を持った授業づくり
2 豊かな心	①②③④⑤	教職員・保護者・生徒アンケート 個別の包括支援プラン分析 道徳教育及びキャリア教育の実施	キャリア教育を中心に日常生活及び働くことを意識した清掃活動及び校内美化についての取組が進められている。人との関わりについては、重要性については教職員・保護者とも感じているが評価にはばらつきがあり、児童生徒同士の横の関係の広がりがまだ不十分であることが伺われるため、教師主導ではなく児童生徒中心とした仲間同士の学習の展開が課題となる。	・キャリア教育の推進 ・児童生徒のキャリア発達の視点による課題の整理と学習設定の実施 ・教職員の言葉づかい等児童生徒との関わりにおけるモデル意識・人権意識の向上 ・交流及び共同学習を中心とした社会生活を広げる学習活動の展開
3 健やかな体	①②③⑤	教職員・保護者・生徒アンケート 個別の包括支援プラン分析 給食活動 自立活動実施状況	児童生徒の健康・保健に関する取組についてはおおむね教職員・保護者とも評価しており、日常生活における体づくりや保健室を中心とした取組ができています。しかし、日常の整理整頓を含めた環境整備や安全についての課題が挙げられているため、教職員及び児童生徒全体での環境整備に対する意識の向上が望まれる。	・児童生徒個々の身体状況の把握と保健室及び関係機関との連携の充実 ・校内環境整備の充実(全校体制での校内環境整備日の設定など) ・職員室及び各教室の整理整頓
4 学校独自の取組	②⑤⑥⑦⑧	教職員・保護者・生徒アンケート 地域連携活動状況 学校運営協議会協議	学校と地域の連携は様々な形でやっているが、教職員が全体としてその内容を十分に把握しておらず、また、児童生徒の生活と結びつけた視点が意識できていない。学校内での教育にとどまり、広い視野での社会生活を見据えた新しい教育活動を展開しようとする意識が薄い。保護者も同様に学校に通っていることに満足してしまっている傾向が見られる。地域での活動も見据えた東総合としての新たな教育活動の創造が望まれる。	・地域連携・地域活動の充実 ・関係機関との連携による学習活動や学校行事の展開 ・支援部を中心とした関係機関とのネットワークの強化 ・学校運営協議会を中心とした地域ネットワークの拡充と協働活動の展開 ・校内プロジェクトの立ち上げ及び具体的な取組の推進

2-② 学校関係者評価 【 評価日 : H24.10.19 評価者・組織 : 学校運営協議会➡ 学校評議員 (いずれかに○) 】

評価結果	改善に向けた支援策
<p>・学校と地域と一緒にできる活動があれば、地域の協力は得られる。学校からもっと様々なことを発信する必要がある。学校のことをもっと知って、ともに活動する場所や機会があれば地域と学校との関係はもっと密接になる。教育活動においても長いスパンでのビジョンを持って地域力を活用し、学習活動を考えていく必要がある。従来の学校の中だけにとどまるのではなく、生活者としての教育の視点を持って授業改善していくことが望まれる。</p>	<p>・福祉・医療・大学・地域等の各機関とのネットワークの構築 ・地域及び連携機関との協働での取組の展開 ・学校運営協議会との具体的な連携内容の検討・実施 ・開かれた学校づくりのための広報及び情報発信と情報共有の工夫</p>

3 2回目評価

3-① 自己評価 【 評価日 : H25. 3. 11 評価者・組織(名称) : 学校評価委員会 】

分野	評価項目	評価指標	分析(成果と課題)	改善策
1 確かな学力	①③④⑤	教職員・保護者・生徒アンケート 個別の包括支援プラン分析 学習活動状況	個別の包括支援プランを中心とした学習の展開については教職員・保護者とも重要性を強く感じているが、双方とも評価が「大体できている」にとどまり、保護者の評価においては「できている」との評価が伸びておらず、年度を通しての達成度が弱い。特に児童生徒が生きる力を身に付けているという評価については教職員・保護者ともに評価が低く、学習目標の達成に課題がある。	・柔軟な学習活動の運営のための教育課程の編成 ・保護者との情報の共有による、家庭生活・地域社会を見据えた学習課題の設定 ・授業時間の確保 ・生活の場を見据えた授業改善
2 豊かな心	①②③④⑤	教職員・保護者・生徒アンケート 個別の包括支援プラン分析 道徳教育及びキャリア教育の実施	キャリア教育を中心に日常生活及び働くことを意識した清掃活動及び校内美化についての取組が定着してきた。コミュニケーション能力の育成については、その重要性を認識できている。教職員が見本となった、正しい言葉づかいや関係性をもとにした児童生徒中心の仲間同士の学習を展開していくことが課題である。	・キャリア教育の推進 ・児童生徒のキャリア発達の視点による課題の整理と学習設定の実施 ・教職員の言葉づかい等児童生徒との関わりにおけるモデル意識・人権意識の向上 ・交流及び共同学習を中心とした社会生活を広げる学習活動の展開
3 健やかな体	①②③⑤	教職員・保護者・生徒アンケート 個別の包括支援プラン分析 給食活動 自立活動実施状況	児童生徒の健康・保健に関する取組については教職員・保護者ともに良い評価であり、日常生活における体づくりや保健室を中心とした取組ができている。しかし日常の整理整頓を含めた環境整備や安全についての課題が年間を通して挙げられているため、教職員及び児童生徒全体での安全意識の向上や環境整備に対する意識の改善が望まれる。	・児童生徒個々の身体状況の把握と保健室及び関係機関との連携の充実 ・校内環境整備の充実(全校体制での校内環境整備日の設定など) ・職員室及び各教室の整理整頓 ・日常的な活動に対してのわかりやすい環境についての検討
4 学校独自の取組	②⑤⑥⑦⑧	教職員・保護者・生徒アンケート 地域連携活動状況 学校運営協議会協議	学校と地域の連携は様々な形で行っているが、教職員が全体としての意識はまだまだ高まりきれていない。また、学校内での教育にとどまり、広い視野での社会生活を見据えた新しい教育活動を展開しようとする意識が育ちきれていない。地域での活動も見据えた東総合としての新たな柔軟かつ発展的な教育活動の創造が望まれる。	・地域連携・地域活動の充実 ・関係機関との連携による学習活動や学校行事の展開 ・支援部を中心とした関係機関とのネットワークの強化 ・学校運営協議会を中心とした地域ネットワークの拡充と協働活動の展開 ・校内プロジェクトの立ち上げ及び具体的な取組の推進

42

3-② 学校関係者評価 【 評価日 : H25. 3. 12 評価者・組織 : 学校運営協議会 学校評議員 (いずれかに○) 】

評価結果	改善に向けた支援策
<p>「できる」という評価の数値が伸びていないのは、まだまだ改善の余地があり、課題を明確にして具体的に取り組んでいくことが望まれる。しかし数値にだけ左右されるのではなく、それを学校としてどのように分析し捉えていくのかが大切である。学校と地域が一緒に協力し、できる活動があれば、共に取り組んでいくためにも、学校からもっと様々なことを発信する必要がある。学校のことをもっと知って、ともに活動する場所や機会があれば地域と学校との関係はもっと密接になる。これまで地域との関係をもとに培ってきた、様々な財産をもとに、それをいかに活用して長いスパンで学習活動を考えていく方が必要である。従来の学校の中だけの活動ではなく、様々なことを結びつけて、面としての活動に広げていくことが望まれる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉・医療・大学・地域等の各機関とのネットワークの構築 ・地域及び連携機関との協働での取組の展開 ・学校運営協議会との具体的な連携内容の検討・実施 ・開かれた学校づくりのための広報及び情報発信と情報共有の工夫

4 総括・次年度の課題

○ 個別の包括支援プランの内容の充実と質の向上を図り、そこから引き出される個々のねらいを明確にした取組の充実及び個々のニーズに応じた学習の工夫と柔軟な指導内容及び指導形態の対応
 ○ 地域と連携した開かれた学習の展開
 ○ 小・中・高の系統だった計画的な成長を積み上げるためのキャリア教育の充実と展開
 今回の中間・後期評価の比較においては、数値的にほぼ大きな変化は無いが、教職員・保護者の評価においては、できているという面での評価が中間期よりも低くなっており、年間を通しての達成度に課題が見られる。また、「わからない」との評価がいくつか見られるため、総合支援学校としての独自の評価のあり方について検討する必要がある。

